

テアトル・エコー創作戯曲募集 佳作入選作品（二〇一〇年）

バスタブで遊泳ゆうえいするあなたへ

作 石原美か子

（上演時間 約一二〇分）

※本作品は、テアトル・エコーによる上演(二〇一三年)の際、佳作入選作品に作者自ら加筆修正したものです。

■登場人物

成澤^{ナルサワ}キミハル (33歳)

入院患者。会社員。

成澤マミコ (33歳)

キミハルの妻。妊娠中。

本間シンノスケ (33歳)

入院患者。キミハルの同級生。

立花ヒロシ (45歳)

キミハルの上司。

立花ツカサ (28歳)

ヒロシの妻。

小野瀬ユウイチ (32歳)

入院患者。

小野瀬ナナミ (30歳)

ユウイチの妻。妊娠中。

古賀マモル (55歳)

入院患者。幼稚園の園長・理事長。

古賀サトシ (21歳)

マモルの息子。大学生。

古賀ノリエ (52歳)

マモルの妻。

日和^{ヒヨリ}ミキオ (25歳)

看護師。

青山カツヒコ (40歳)

産婦人科医師。

■場所

病室

病棟屋上の休憩所(喫煙スペース)

同じ病院内の産婦人科診察室

◇ 1・産婦人科診察室 ◇

暗転中

青山（声） 成澤^{ナルサワ}さん、成澤マミコさん、2番の診察室へどうぞ。

舞台、明るくなる。

産婦人科の診察室。

医師用の机に向かってカルテを眺めている医師・青山。

成澤マミコ、丸椅子に腰掛けて俯いている。

妊娠9ヶ月。大きなお腹が目立つ。

青山 三十四週目ですね。じゃ、とりあえずまた超音波で診てみましょうか。

マミコ あの…

青山 はい？

マミコ …主人も来てますので、呼んでもいいでしょうか？

青山 ええ、もちろん、どうぞ。

マミコ、診察室の扉を開け、外へ向かって、

マミコ キミくん…

扉から、車椅子に座ったキミハルがゆっくり入って来る。

ビジネスシャツを着ているが、胸から下は病院名が入った毛布で覆われている。

キミハル いつもお世話になってます。

青山 担当医の青山です…

マミコ あの…主人、今日からこちらに入院することに…

青山 そうですか…それはそれは…

マミコ それで、立ち会い出産のことをお聞きしたくて。

青山 失礼ですが、ご主人のご病気はどういった…

二人 ……

青山 その、感染症ですと、立ち会いはちょっと難しいかと…

マミコ うつつたりとか、そういうのは…（キミハルに）ないよねえ？

キミハル たぶん…

青山 何科ですか？

キミハル ……

マミコ ……あの、産婦人科の…

青山 えっ、うち？

マミコ いえ、産婦人科の昔の病棟に…

キミハル ……

青山 ということは…あれですか…あそこの…離れの…？

三人、見つめ合って、しばし無言。

マミコ ……それで、ご相談したいんです…

マミコ、キミハルの毛布を取ると、魚の下半身が現れる。

マミコ ……こんな風になってしまったんですけど…人魚はお産に立ち会えますか？

青山 ……

三人、見つめあい、

暗転――

◇ 2・バスルーム① ◇

暗闇に一筋の光が射し込む。

その光にまわりつくように、白い湯気が漂い始める。

湯気は舞台全体を覆うように広がり、

その湯気の中から、いくつもの浴室のシルエットが浮かび上がる。

バスタブに浸かる人々のシルエット。

大人もいれば子供もいる、ひとりで入浴している者もいれば、二人で、

あるいは家族で入っている者もいる。

そのすべての者がくろついだ、あたたかな時間を過ごしているように見える。

しばらくすると、それらの影は消える。

代わりに、整然と横一列に並んだ、白い六つのバスタブが舞台上に浮かび上がる。

ここは病院敷地の外れに建てられた、産婦人科のかつての入院病棟の一室。

六つのバスタブには湯が張ってあるらしく、湯気が部屋に充満している。

舞台奥正面の扉は開いており、廊下とスタッフステーションらしき窓口が見える。

扉に貼られたホワイトボードには連絡事項が書かれている。

上手は壁、下手は腰高の窓で今はブラインドが閉まっている。

扉や窓の周辺には申し訳程度の観葉植物が並ぶ。

一番下手のバスタブには大人の背丈ほどもありそうなウチワサボテンが一本、

無造作に活かられている。

他のバスタブには何の姿も見られない。

各々のバスタブの間には仕切りのカーテンレールと、束ねられたカーテン。

バスタブ横には収納ラックが置かれ、付き添い用の椅子が点在している。

(便宜上、各々のバスタブを下手側(窓側)から、「バスタブ1」「バスタブ2」…

「バスタブ6」と呼ぶことにする)

漂う湯気の中、キミハル、バスタブ3に浸かって目を閉じている。

シャツのままの上半身、バスタブの縁から魚の尾が垂れ下がっている。

遠くで波の音が静かに響いている。

昼下がりに。ブラインドの細い隙間からわずかに陽光が差ししている。

入口にマミコが現れる。ペットボトルの茶を手にしている。

マミコ

今、飲む？

キミハル

いや……

マミコ

まだ誰もいないの？

キミハル

うん。

マミコ

カウンセリングって、何時までなんだろうね。

キミハル

さあ。

マミコ

今、プールのほう賑やかだったけど、見に行ってみる？

キミハル

いいよ……

マミコ、茶をラックに置いた後、下手の窓へ近づいてブラインドの紐を引く。

昼下がりの陽射しが差し込んで来る。

ブラインドの隙間から外を覗き、

マミコ

あー、見えるよ、海。

キミハル

潮の匂いがけっこうきついな。

マミコ

もっと冷たい感じの部屋かと思ったけど、そうでもないね。

キミハル

ものすごく落ち着かない……

マミコ

そう？

キミハル

なんか、家の中にいるのか外にいるのか……

マミコ

そうだねえ。

キミハル

くつろいでいいのか、いけないのか……

マミコ

(仕切りの)カーテン閉める？

キミハル

ああ……

看護師・日和ヒヨリが入って来る。

日和

成澤さん。診断書の件なんですけど、内容はどうしまししょうかって、タバルザカ田原坂

キミハル

先生が。

日和

内容？

キミハル

会社に提出されますよね？

日和

はあ、まあ……

この病気は何ていうか、まだあまり一般的には知られていない種類のもの
 ですので……本当のことを書いてもなかなか信じてもらえなくてですね、会
 社の方々が野次馬根性で見に来たり……そういう面倒なことが多くてです
 ね……

キミハル

……

日和 なので、内容については三段階、お選びいただけますが、
キミハル は？

日和 全部本当、本当と嘘を半々、全部嘘。どれがよろしいですか？

キミハル ……

日和 お値段は三千・五千・八千円と、嘘の量に比例してお高くなりますが…
キミハル ええと…入院は何日くらいになるんでしょうか？

日和 え？

キミハル もし一、二週間で済むなら、有休を使おうかと思ってるんですが…

日和 会社に報告しないで？

キミハル ええ。

日和 黙って入院して、退院したらそのまま出勤するということですか？

キミハル はい。

日和 ー…なるべく早く会社に戻りたいですか？

キミハル それはまあ…

日和 仕事が溜まるのが心配？

キミハル ここにパソコンを持ち込んで少しずつ処理するつもりなので…もちろん

日和 治療を優先しますが。

キミハル どなたかに引継ぎはできないんですか？

日和 すでに上司が体調を崩して休んでいまして、僕はそのピンチヒッターとい
キミハル うか…今度は僕が休むとなると代わりがもう思い当たらないですし、引き
継いでいる時間があつたら、僕が処理したほうがむしろ早くできますし。

日和 長引きますよ。

キミハル え？

日和 成澤さん、そんなこと考えてたら長引きますよ。

キミハル ……

日和 じゃ診断書のこととはまた後でお聞きしますね。あつ、あと入院承諾書にサ
キミハル イン、まだ頂いてないですよね？ 今、持って来ます。

日和 あの…看護師さん…

マミコ 日和です。

日和 日和さん、カウンセリングは何時までですか？

キミハル もう終わる時間だと思いますけど。今日は海へ出たみたいなので。

日和 海？

キミハル あ、本当はプールなんですけど、下のほうが開閉できる柵になって、海
とつながっているんですよ。海水プールって言えばいいんでしょうか。

日和 ……水中でカウンセリングを？

キミハル 海水のほうの治療効果が高いようなんです。なので、時々、海まで出て
みてるんですよ。

日和 このあたりは離岸流がすごいと聞きますが。

キミハル みたいですね。

マミコ え、大丈夫なんですか？
日和 はい、ほぼ大丈夫です。
キミハル ほぼ？
日和 皆さん、基本的には人魚ですから。
キミハル ……
マミコ ……
日和 バスタブから出たい時は呼んでくださいね、介助します。
キミハル わかりました。
日和 お湯、もつと熱くしましょうか？
キミハル あ、いいです…冷めたくらいのがちょうどいいので。
日和 じゃ、承諾書、持って来ます。

日和、出て行く。

マミコ キミくん、泳げるんだっけ？
キミハル 海なんて、もう何年も行ってないよな。
マミコ やっぱり、プールのほう、ちよつと見て来ようよ。
キミハル もう帰っていいよ。病室もわかつたし、もういいだろう？
マミコ そんな追い立てないでよ。
キミハル 荷物、持って来なくちやいけないし。
マミコ タクシー使うから大丈夫。
キミハル 他の人たちが戻って来ないうちに…
マミコ なんて？ 挨拶しなきゃ。
キミハル いや、だって、他の人たちがどんな感じかわかんないよ…危険なことがあるかもしれない…
マミコ みんな、キミくんと同じでしょ？
キミハル そうらしいけど、中身も変化してるかもしれないだろう？
マミコ だって人魚でしょ？ 凶暴な人はいないと思うよ。
キミハル そんなのわからないよ。
マミコ 生真面目で責任感の強い性格の人がなりやすい病気で…って、先生、言ってたじゃない。みんな、いい人なんじゃないかな。
キミハル 離岸流でも平気な人たちだぞ。
マミコ キミくんだって明日からやるんでしょ？
キミハル 冗談じゃない。
マミコ じゃ、沖繩へ行く？ 集中治療、だっけ？
キミハル 行ってる間に産まれたらどうすんだよ。
マミコ でも今のままじゃ予定日までには治るか…
キミハル 治るよ。

マミコ …何かムキになってない？

キミハル 何が？

マミコ 立ち会いに。

キミハル なってないよ。約束したから。

マミコ 検討してみるって…本当かなあ？

キミハル 断られる理由がないだろう？ べつに移る病気じゃないし。

マミコ だよね？ むしろこうなってもちようど良かったのかもよ。

キミハル なんで？

マミコ だって、仕事中だと時々連絡つかなくなるじゃない？ だから神様がこうい

う風にしてくれたんだよ。いつでも出産に間に合うように…

キミハル もうちよつと他の方法もあるだろう、神様だって…

マミコ そうだねえ…

廊下から入院患者・本間の声が聞こえてくる。

本間（声） 日和くん、日和くん、いないのー？

少しして車椅子に乗った本間シンノスケがブツブツ言いながら入って来る。上半身は派手なTシャツ、腰から下はバスタオルを巻き、タオルの端からキミハルと同じような魚の尾が覗いている。濡れた髪の毛をタオルで無造作に拭きながら、

本間 まったく、どこをフラフラしてるんだか…

本間、ナースコールの呼び出しボタンを押す。

キミハルとマミコに気づき、一瞬、動揺するが、

すぐにキミハルの下半身に目を止め、曖昧な笑顔で会釈する。

本間 あ、どうも。

キミハル あ、成澤といます。

本間 本間です。そっちな…（バスタブ5を指す）。

キミハル よろしくお願ひします…妻です。

マミコ よろしくお願ひします。

本間 あれ、おめでたですか。

キミハル

ええ、まあ……

本間

そうですか、予定日は？

マミコ

再来月です。

本間

……あの、失礼なことお聞きしますけど……前ですか、後ですか？

キミハル

……は？

本間

いや、何て言うか、赤ちゃんができたのがこういう状態になってしまっ前

なのか後なのか……ビフォア魚ですか、それともアフター魚ですかね？す

いませんね、変なこと聞いて……

……

本間

いやあの、僕まだ独身なんですけど、結婚とか子供とか、こういう体になっ

て、そのへんはどうなのかなあって……それでもしアフターだったら希望が

持てそうな気がして……

キミハル

ビフォア、です。

本間

あ……

キミハル

ビフォア、魚。

本間

やっぱりそうですよね……そうかそうか……（マミコに）すみません、変な

こと聞いて。

キミハル

いえ。

マミコ

不安になりますよね。

本間

その（バスタブ6を指して）小野瀬くんって人も、奥さんが妊娠中で。

マミコ

そうなんですか。

本間

六ヶ月とか七ヶ月だったかな。

キミハル

その方は……

本間

（泣きそうに）ビフォア。出産までに退院したいからって、彼、先月から

キミハル

沖繩へ行ってますよ。

マミコ

集中治療？

本間

成澤さんも先生に薦められたと思うけど……「沖繩で人魚を満喫しよう、そ

マミコ

してスッキリしてしまおう」って、治療プラン。

本間

それって効果あるんですか？

マミコ

どうだろうね、確かにそれで一気に足が戻った人もいるらしいけど……小野

本間

瀬くんももう三ヶ月は入院してるから焦ってるみたいだし……成澤さんは

マミコ

いつから？

キミハル

え？

本間

風呂場に閉じ籠ったの。

キミハル

ああ……一週間くらい前です、か。

マミコ

その前から、お風呂に入ってる時間が日に日に長くなっていったんですけ

本間

ど……

キミハル

ああ。で、一週間、風呂場に閉じ籠って、気づいたら……

キミハル

……ええ。

本間 …赤ちゃん産まれるし、きれいな南の海で一気に治療したほうがいいのか
もしれないよ。

キミハル ……

マミコ ……

キミハル 本間さんも行く予定なんですか？

本間 うーん、悩み中。

キミハル そうですか…

本間 日和くん、戻って来たかな…

キミハル …タクシー呼んでおけば？

マミコ そうだね。

本間 …成澤さん。

キミハル はい？

本間 ずっとこのあたりに住んでます？

キミハル ええ、地元ですけど。

本間 もしかして、高校って、オオナギ大風学院？

キミハル え…

日和、
入って来る。

日和 本間さん、呼びました？

本間 どこ行ってたのよ。

日和 すみません、ちよっとバタバタしてて。

本間 バスタブに介助してもらえる？

日和 その後どうですか？どこか痛いとか？

本間 痛くはないけど、めちやくちや体が重いね！

日和 先生に聞きましたよ、すごいなあ、離岸流を泳ぎ切ったそうじゃないですか。

本間 冗談じゃないよ、死ぬかと思った。

日和 もう、きつちり、はまってたんですって？ 離岸流のど真ん中のど真ん中。

本間 先生さ、あれ、わざとじゃないかって思うんだけど。

日和 まさか、まさか。だって海上保安庁に電話しかけたそうですもん。

本間 電話なんて持ってなかったよ、ビデオ撮ってたよ、冷静に！

日和 だって、それはほら、「患者の人魚がカウンセリングの途中で離岸流にはま
りました」って言ったって、意味不明でしょう？ だから一応、証拠のビデ
オ撮っておかないと…

本間 証拠？ 何の？

日和 医療訴訟？

本間 訴えられそうな治療は最初からしないでよ！
 日和 いや必要な治療なんですよ、だから理解してもらえるように……遺族にも
 本間 死んでないよ！死ぬつもりもないし！
 日和 ああ何でそういうこと言うんですかー
 本間 は？
 日和 死んじゃいやいそうな気持ちも少しあります、なんて言ってくれば、ほかの
 病棟に移れるのに。
 本間 よそに押しつける気かよ！
 日和 冗談ですよお。
 本間 勘弁してよ……ほら、成澤さんが不安になっちゃってるよ。
 キミハル いやいや……
 日和 冗談ですからね、もちろん。
 キミハル ええ……
 本間 まったく、日和くんは時々、冗談になってない時が……

入口から古賀ノリエ、入って来る。

ノリエ こんにちは。あら、日和さん。
 日和 あ、古賀さん……今日からこちらに入られた成澤さんです。
 キミハル 成澤です、よろしく願います。妻です。
 マミコ よろしく願います。
 ノリエ 古賀です。そこに主人が……

キミハルの背後（窓際）のほうを軽く指し示す。

キミハルとマミコ、空のバスタブ2と思ひ、少し不思議そうな顔をする。

本間 古賀さん、どうですか？……最近、話もできないから寂しいですよ。
 ノリエ ええ……元気は元気です。
 日和 ま、容態としては落ち着いていますから。
 ノリエ はい……
 本間 今日、サトシくんは？
 ノリエ 今、売店に寄ってます。

ノリエ、ラックの上からポットを取り、皆に会釈をしながら出て行く。

日和 冗談は抜きにしてですね…

キミハル

はい？

日和 難しいんですよ、この病気。そもそも病気って言えるのかどうか…どこも悪くないんですよ、心身ともに…

キミハル

どこも悪くない？

マミコ

どういう意味ですか？

キミハル

どこも悪くないどころか、どう見たって、これは…

日和

でも成澤さんも本間さんも、あとあちらの小野瀬さんも、これといって病気の残りの病気が何も見つかからないんです。身体の半分は人間として健康そのもの、残り半分は魚として健康そのもの、精神面も多少は不安定になっているとは思いますが、専門家がカウンセリングをするほどでもない。皆さん本当にもう、心身ともに健全で快活な人魚さんでいらっしやる。

三人

……

日和

離岸流も余裕で泳ぎ切るし。

本間

余裕じゃないって！

日和

先生の研究だと、思いっきり満喫するまで泳ぐと、元に戻る可能性が高いみたいなんですよね、他の病院からもそういう報告がチラホラ入ってます。

キミハル

さつき先生からも聞きました。

本間

それ、本当なのかなあ？

日和

本間さんもここに来てもう一ヶ月経ちますし、そろそろ沖縄に行ってみたらどうでしょう？

本間

だから、保険がきくなら行くって。

日和のスタッフ用PHSが鳴る。

日和

あ、先生…小野瀬さんですか？ はい…了解しました。すぐに準備します。

本間

はい…(切る)

日和

どうしたの？

本間

小野瀬さん、さつき羽田に着いたんですけど、少し酸欠気味みたいです。

日和

えっ…

本間

スタッフがついてますし、意識もあるそうなので、大丈夫だと思いますけど…

日和

ど…

日和、小走りで出て行く。

本間 そうか、戻って来るんだ…

キミハル え？

本間 (ため息) 少し休みます…あ、夕食は六時です。

キミハル あの、大丈夫ですか、介助なくて…

本間 飛び込みます。

キミハル ……。

本間、バスタブ5へ行き、仕切りカーテンを閉める。
少しして、大きなものが飛び込む水音。

激しい水しぶきが仕切りカーテンの上まで弾け飛ぶ。

入り口から、雑誌とポットを手にした古賀サトシ、入って来る。

キミハルとマミコを見てぎこちなく会釈、二人も曖昧に返す。

サトシ、そのままバスタブ1へ近づいてラックに雑誌とポットを置き、湯呑などを出して茶を淹れる用意をする。

サトシ (ラックの中を探りながら) 煎茶とほうじ茶、どっちがいい？

キミハルとマミコ、顔を見合わせ、そっとサトシの様子を伺う。

サトシ あれ、ほうじ茶ないな、切れたのかな、何だ、いま買ってくれば良かった。

緑茶でいい？

サトシ、緑茶を淹れ始める。

マミコ 私たちに言ってるのかな？

キミハル いきなりタメ口か？

マミコ 若い子だから…

キミハル 若いって言ったって…

サトシ 煎茶でいいよね？

マミコ 返事しとく？

キミハル えー？

マミコ すみません、じゃ煎茶で。

サトシ、驚き、慌ててキミハルとマミコが見えるところまで出て来ると、とても丁寧な物腰で、

サトシ あ、召し上がりますか、お茶。

マミコ えっ。

サトシ いま淹れます。ちょっと待っててください。

マミコ あれ、あの…

サトシ あ、僕、古賀サトシといいます…父がお世話になります。

キミハル あの、成澤です。こちらこそ…

サトシ、元の位置に戻ると、さきほどの続きを始めて、

サトシ 待ってて、あちらに先に淹れるから。

丁寧に茶を淹れ始める。

サトシ 母さん、そこで先生と話してる。いや、たまたま廊下でばったり会って…

べつに重要な話じゃないよ、治療の経過とか、そういう話だと思うから…

マミコ え、はい？

サトシ え、あ、父に話してるんで…

マミコ …あ、ごめんなさい。

サトシ すいません、声でかくて。

マミコ いえいえ、全然…

サトシ、バスタブ2のラックをキミハルたちの手前まで転がして来て、その上に二人の茶を並べて置く。

サトシ どうぞ。

キミハル ありがとうございます。

マミコ いただきます。

マミコ、キミハルに茶を渡し、二人とも飲みながらサトシの様子を伺う。
サトシ、元の位置に戻り、湯呑を三つ出して再び茶を淹れ始める。

サトシ

（話題を探すような間）ああ、そうだ、俺バイト変えたんだ、家庭教師やることになった。居酒屋も嫌いじゃなかったけど、夜中だし、拘束時間も長いからさ。あんまり夜中に母さんひとりにしとくのもどうかあって思っ
て。カテキョウなら時給もいいし、融通もきかせてもらえるし、ここにも
もうちよつと来られるようになると思うから…

サトシ、湯呑を一つ持ち、窓辺に置かれたパイプ椅子に腰を下ろす。

サトシ

（話題を探すような間）中学一年の男の子なんだけど、英語と数学をやるのね、でも数学はまだしも、中一の英語って教えることがほとんどないって言うか、もう覚えてねって言うしかない感じでさ、昨日教えたのは「マウンテン」。M・O・U・N・T・A・I・N…それを正しく書くっていう…あ、マウンテンって「山」ね…知ってるか、そのくらい。なかなかちゃんと書けなくて、だけど小テストで出るって言うから、必死にずっとマウンテンの練習させてさ。でも書けないんだよね、マウンテン。なのに、彼女はいるらしいんだよ、そいつ、中一のにさ、もう彼女がいるってびっくりだよ。いや中一で彼女いてもおかしくないけどさ、でもマウンテン書けないのに彼女は作れるのかと思ったら、なんかこいつ恐ろしいやつだなあとか思っちゃって、すげえよな、最近の中学生は…（茶をすする）
…あの子もここに入院してるんじゃない？
…だって足、ついてるよ。
だから、別の病気じゃないかな？
別の？
メンタル的な。

マミコ
キミハル
マミコ
キミハル
マミコ

入口からノリエが入って来る。

ノリエ

サトシ。

サトシ

長いよ、何話してたんだよ？

ノリエ

小野瀬さんがね、帰って来たんだって。

サトシ

沖繩行った？

ノリエ そう。
 サトシ ……だめだったんだ。
 ノリエ ……
 サトシ そうか……残念だったね……
 ノリエ ……お父さんにお茶淹れてくれた？
 サトシ 淹れたよ、そこ。あんたのもの。
 ノリエ 飲ませたくれた？
 サトシ いや。
 ノリエ だめじゃない、飲ませてあげなきゃ。

ノリエ、サボテンを覗き込んで、

ノリエ ねえ、お父さん。

キミハルとマミコ、固まる。

サトシ だから、どこから飲ませるんだよ。
 ノリエ またそういうことを言う……あら、本も置きっぱなし。読んであげて、って
 サトシ 言ったじゃない、お父さん、毎月楽しみにしてるんだから。
 ノリエ 話をしてたんだよ。
 サトシ 話？
 ノリエ 話しかけるって言うから、頑張って話してたんだよ。
 サトシ 何の話？
 ノリエ 何って、バイトのこととか適当に……

ノリエ、湯呑をサボテンに押し当てる。

ノリエ どうぞ。
 サトシ 昨日と口の場所が違うんだけど。
 ノリエ のど渴きましたよね。
 サトシ サボテンなんだから乾いてるほうがいいんじゃない？
 ノリエ お父さん、「月刊・英才教育」が出てましたよ。サトシが読んでくれますか
 サトシ らね。
 ノリエ 声出さなくなっちゃっていいだろ、こうやって開いて見せてやれば。黙読する

よ、黙読。

ノリエ だってお父さん、目なんてないじゃない。

サトシ だったら口だってねーよ！

ノリエ だったら耳だってないでしょ？ どうしてあんなに一所懸命に話しかけてくれたの？

サトシ は？ 聞いてたの？

ノリエ 聞こえたのよ、廊下まで。声が大きいから。

サトシ 何だよ、聞いてんなよ。

ノリエ お父さん、喜んでるわ、きつと。

サトシ いつも覚えてないだろ、してやったことなんて。もうやめれば？ こんな話しかけたり、散歩に連れて行ったり、やったって無駄なんだよ、無駄……学校もあるのにいつもありがとうね。母さん、あんたがいて本当に助かったわ。

サトシ ……

ノリエ お茶、頂くわ。

サトシ ああ……

キミハル ……どれが患者だ？

マミコ ……

ノリエとサトシ、茶を飲む。

本間が仕切りカーテンをそつと開けて顔を出す。

本間 成澤くん。

キミハル あ、はい……

本間 聞いてなかった？

キミハル は？

本間 古賀さん、ちよつと特殊で、魚じゃなくてサボテンなんだよね。

キミハル・マミコ は？

本間 しかも全身。

キミハル・マミコ ええっ？

ノリエ 時間は大丈夫なの？ 今日の授業は休めないんでしょう？

サトシ そろそろ行く。

ノリエ 気をつけて。

サトシ、キミハルたちに会釈しつつ部屋から出て行く。

ノリエもお盆に空の湯呑をのせ、出て行こうとする。

ノリエ (キミハルとマミコの湯呑に気づき) あら…
 マミコ あ、あの、ご馳走さまでした。サトシくん…
 ノリエ ああそうですか、渋くなかったかしら？ あの子、雑だから。
 マミコ いえ、おいしかったです。あとで洗ってお返ししますから…
 ノリエ いいです！いいです、お腹大きいんだし、ね。
 マミコ すみません…
 キミハル ご馳走さまでした…

ノリエ、二人の湯呑もお盆にのせ、部屋から出て行く。
 キミハルとマミコ、本間、それを見送ってから、

マミコ じゃ、あれがご主人ってこと…？

本間 そう。時々、不意に戻ることもあるんだけど…どうやら本人、自覚がない
 みたいなんだよね。

キミハル 自覚がない？

本間 ああなってる間の記憶がないみたい。ま、植物だから仕方ないのかもね。
 けっこうプライドの高い感じのおじさんでさ…栃木だか群馬だかで有名
 な私立幼稚園の園長先生やってるらしいんだけど…自分は竜になつて
 んだ、って言い張ってる。

キミハル 竜って、ドラゴン？

本間 そういう夢でも見てるのかな？ 銀色の竜になって黄河だか長江だか、中国
 の空を飛び回ってるんだって…

キミハル それはまた…

マミコ 先生は本人に説明してないんですか？

本間 したらしいんだけどね、どうしても認めないから今は話を合わせてる。俺
 らにも合わせるようにって言ってたから、成澤くんもよろしくね。

キミハル ……

マミコ じゃ、古賀さんはお風呂じゃないんですか？

本間 え？

マミコ お風呂に閉じこもってたわけじゃないですよ、サボテンだから…

本間 砂場らしいよ。

キミハル 砂場？

本間 幼稚園の。夏休みだから誰も来ないでしょ？ 砂場で裸足になって、じつと
 佇んでいたんだって。

キミハル・マミコ ……

ノリエ戻って来ると、台車に乗せた大きな箱に古賀を移す。箱は一目で幼稚園の先生たちが手作りしたとわかる品で、色紙などで派手に装飾され、「園長先生がんばれ」などと書いてある。そのまま台車を押して出て行く。

本間 ……さ、成澤くん。さっき言いかけたんだけど…
 キミハル はい？
 本間 もしかして大風学院じゃない？
 キミハル え、そうですね…
 本間 一年のとき、F組じゃなかった？
 キミハル そうです…え？
 本間 成澤？成澤だろ？覚えてない？俺、本間、本間シンノスケ。
 キミハル 本間…シンノスケ…ああっ！あの本間シンノスケ？
 本間 そうそうそう。
 キミハル うわー、本間、何やってんだよ、こんなところで！
 本間 お前もな！
 キミハル なに人魚になってんだよ！
 本間 お前もな！
 マミコ え？同級生？
 キミハル ああ、高校一年の時、同じクラスだった本間。
 本間 一番最初に席が隣でちよっと仲良くなったんだよね。
 キミハル そうそう。
 マミコ へえ。
 キミハル 最初はけっこう話したんだけど、部活が違ったから…な？
 本間 そう、成澤は陸上部で、俺は屋上部だったから。
 マミコ え？
 本間 屋上部。
 キミハル 屋上でできることをする部活。うちは帰宅部が許されなくて、全員どこか所属しなくちゃいけなかったんだよ。で、まあ、何もしたくないやつらがその屋上部つてのに入ってたんだ。
 本間 グラウンドや体育館は運動部のやつらがいるし、教室は文化部が使うから、もう屋上しかないんだよね、居場所が。
 キミハル なつかしいなあ。
 本間 なあ！…奥さん、名前聞いていい？
 マミコ マミコです。
 本間 どこで知り合ってたんだよ？
 キミハル 友達の紹介みたいなの…
 本間 へえ。結婚はいつ？
 キミハル 三年前。

本間 どこ住んでんの？
 キミハル 海浜公園のほう。

本間 仕事は？

キミハル まあ、大雑把に言うとなシステムエンジニア。

本間 へえ、かっこいいなあ。

キミハル お前は？

本間 だから独身だつて。

キミハル お前の家って動物病院だったろ？ 跡継いだの？

本間 あ、覚えてた？・

キミハル (マミコに) 消防署の斜め向かいに、でっかいビルあるだろ？ 犬の足跡のマークが壁一面に付いたクリーム色の・

マミコ えっ、あの？ 本間動物クリニック？

キミハル そうそう。

マミコ すごい、あそこなんですか？

本間 うん、まあね・

マミコ 院長先生つてことですか？

本間 いや・

キミハル あ、まだ継いでないんだ？ (冗談で) お前、自分で自分を診察したほうが

本間 早いんじゃないの？

キミハル ・診察、できない。

本間 は？

キミハル 獣医、なれなかった。

キミハル え・

日和、書類を手に入つて来る。

日和 成澤さん。

キミハル あ、はい。

本間 小野瀬さん、着いたの？

日和 もうあと十五分くらいで。

本間 そう。

日和 遅くなつてすみません、これ、入院承諾書です。よく読んでサインいただけ

キミハル ますか。また取りに来ます。

日和 はい・

キミハル あと、面会の方がいらしてますが・

日和 え？

日和 立花さん、という方です。

キミハル え、立花さん？

マミコ 誰？
 キミハル たぶん、会社の上司の。他に立花っていないし…
 日和 奥様みたいですよ、「主人が会社で」と仰ってましたから。
 キミハル えっ、奥さん？
 マミコ なんです？
 キミハル わからない…
 日和 廊下でお待ち頂いてますけど。どうします？ 丁重にお断りしましょうか？
 キミハル ええと…マミコ、話聞いてきて。
 マミコ ええっ。
 キミハル だってこんな姿じゃ会えないだろう。
 マミコ じゃ断ってもらえば？
 キミハル 悪いだろう、わざわざ来てくれたのに…
 マミコ でも会社には言っていないでしょ？ 何でここにいるって知ってるの？
 キミハル ……もしかして、さつき産婦人科で見られたんじゃないか？
 マミコ 産婦人科？
 キミハル 奥さん、若いんだよ、立花さんと親子くらい離れてて。
 マミコ ああ、半年くらい前だっけ、結婚したの。
 キミハル そう、だから妊娠してもおかしくないし…
 マミコ ……
 キミハル マミコ、ちょっと行って来て。
 マミコ だって容態とか聞かれたら、何て言えばいいの…
 キミハル 適当に過労とか言っておけばいいだろう？
 マミコ だってそのまま会社に伝わるかもよ？
 キミハル 口止めして…
 マミコ 怪しいでしょ、そんなの。
 ……
 マミコ キミくんが話して来なよ。
 キミハル だからこの姿じゃ…
 日和 車椅子に乗りますか？
 キミハル ええっ…
 本間 毛布掛けちゃえば、見えないよ。
 キミハル そんな…

入口から立花ツカサ、覗き込む。
 派手ではないが流行を意識した髪型と服装をしており、かなり若く見える。
 しばし様子を探っているが、ためらいがちに声をかける。

ツカサ

あの…

全員、慌てふためき、マミコがキミハルの仕切りカーテンを、日和が本間の仕切りカーテンを閉める。

日和
ツカサ
あちらでお待ちください。他の患者さんもいるので……
すみません、なかなかいらつしやらないので……

マミコ、キミハルに押し出されるようにして、カーテンの外に出る。
キミハル、カーテンの裏側で聞き耳を立てている。
本間もカーテンの裏から覗き見し、日和もつい話に耳を傾ける。

マミコ
ツカサ
マミコ
ツカサ
……成澤の妻です。
あ、はじめまして、立花ツカサと申します。主人が……
お話は伺ってます。いつも主人がお世話になっております。
いえ、こちらこそお世話になっております。

ツカサ、深々と頭を下げる。
マミコも下げるが、お腹が大きいため、あまり頭が下がらない。

マミコ
ツカサ
マミコ
ツカサ
マミコ
ツカサ
マミコ
ツカサ
マミコ
ツカサ
マミコ
ツカサ
あ、こんな体なので、きちんとご挨拶できず、すみません……
こちらこそ大変な時期にすみません……
あ、いえ……
……
……
成澤さんは……お話はできないでしょうか？
あの……どうしてここがおわかりに？
あ、すみません、さきほど病院の中でお見かけして……
うちの主人、ご存知でしたか。
結婚式に来ていただいたので。
ああ……
会社の方は皆、酔ってらして……ちゃんとお話できたのが成澤さんだけでしたので。
ああ……
車椅子に乗ってらしたので気になって、つい後をつけてしまつて……失礼で

すよね、ごめんなさい。

…ご主人、どうかされたんですか？

え？

休まれてるとお聞きしましたけど…お具合いかがですか？

………

………

それをお聞きしたくて。

え？

主人、どうなってしまったんでしょうか…

は？

成澤さんは、どういったご病気なんでしょうか？

………

ごめんなさい、こんなことお聞きしちゃいけないことですよ。

いえ、あの…

ただ成澤さんなら何かご存知じゃないかと思って…主人がどうして会社へ行かなくなってしまったのか…具合が悪いのなら病院へ行きましょ
うと誘っても全然…でも明らかに今までの様子とは違っていて…

………

………

こちらに通院されているとか、そういうわけではないんですか？

今は家に…ずっと、家にいます。

お家で寝込んでらっしゃる？

寝込んでいると言っているのかどうか…だいたい、いつ寝てるのかしら、

あの人…ほとんど出て来ないからわからなくて…

は？

………

………

出て来ないんです…主人、もうずっと、バスルームに籠もったまま…

えっ…

えっ…

キミハル

キミハル、思わず仕切りカーテンを開け放つ。

ツカサとキミハルの目が合い、キミハルの姿にツカサが息を呑む。

それを見た全員も動きを止めて、

暗転

◇ 3・バスルーム② ◇

西棟屋上の喫煙スペース。

植え込みを囲むようにベンチと灰皿が置かれている。

ツカサとマミコはベンチに座り、車椅子のキミハルと向かい合っている。

ツカサ はい、最初は精神科へ相談しに来たんですけど、様子を話したら、

こちらへ回されて…

キミハル 立花さんがそんなことになっているとは思いませんでした…休まれてからけっこう長いので、もしかしたら鬱病か何かかと…

ツカサ 成澤さんはどうだったんですか？どのくらいバスルームに籠って…その、こういう風に…？

キミハル 一日中籠もるようになって…

マミコ 一週間。

ツカサ 一週間…

キミハル 立花さんは？

ツカサ もう二週間くらい、ずっとバスルームにいます…スーツを着て、バスタブの縁に腰掛けて、煙草を吸って…どこを見ているのかわからないような目で…

キミハル スーツで？

ツカサ はい。

マミコ じゃバスタブに…お湯の中に入ってるんじゃないんですね？

ツカサ あ、はい、そうです。

マミコ へえ…

キミハル そうなんですか…

ツカサ それは先生にも言われました…たいていの人はお湯にずっと浸かっていて、そこから出られなくなると…成澤さんもそうだったんですか？

キミハル ええ…

マミコ 最初は半身浴かなと思っていました、三十分とか四十分くらい…ちよつと長風呂だなんて思うくらいで。それが徐々に徐々に延びていつて…一時間、二時間、二時間半…そのうち会社を休んで昼間もお風呂に入るようになって…

ツカサ 一日中バスルームにいるように？

マミコ (頷く)

ツカサ それは…どうして…

キミハル 風呂から出た途端、疲れがドツと固まりのように襲いかかって来るんです、自分の身体が重たくてバスタブのわずかな高さを跨ぐこともままならないんです…でも風呂の中に戻ると急に身体がフワッと軽くなる。うちの風呂

なんて本当に狭いんですけど、まるで海の真中に浮かんでいるみたいなの
 広々とした気持ちになれるんです。だからそこから出るのが本当に億劫で、
 気が重たくて、怖くて、出ようと思っても体が動かなくなるんです。お湯
 なんてすっかり冷めて水になっていているんですけどね、でも何とも感じない
 んです、冷たいとか寒いとか、何とも…水の中で寝ても起きても風邪もひ
 かないんです、何だかおかしなことになってきたなあと自分でも思い始め
 たら…こんなこと…

(マミコに) びつくりされたでしょう？

びつくりというか、呆気にとられてたというか…

私なら気を失いそう…あ、ごめんなさい。

私も失神しそうでしたよ。

そうか？ 落ち着いてたよ。すぐ救急車呼んだし。

キミさんのほうがパニックになってたからでしょ？

……

すごいですね…

…ちようど今、私、妊娠中で…何ていうか大幅な体の変化というのを自
 分で体験してるんで…まあこういうこともあり得るのかもしれないあ
 なんて思っちゃったんです。

私ならそんな風に冷静には…こうやってあらかじめお話を伺っていても、
 もし主人がそうなってしまうたら…

……

いえ、あの、もちろん望んでこうなってるんじゃないとわかってはいるん
 ですけど…

早めに本人を連れていらしたほうがいいんじゃないですか？

そうですね、まだ間に合うかもしれないです。

成澤さんは最初からこの病院に？

いえ、救急車で最初は市民病院に…それからこちらへ回されて。妻がたま
 たまここの産婦人科にかかっていたので、まあちようど良かった、という
 のも変ですけど…

そうですね。

スーツを着てるということはまだ体が変化してないんでしょうし、今のう
 ちじゃないですか？

でも…本人に何て言ったら…

…禁煙外来ってことにしたらどうですか？ 立花さん、ヘビースモーカー
 ですよ、本人もちよっと気にしてたし。

…気にしてましたか？

ええ、少し。

そうですね…家ではあまり話をしない人で…

ああ、わかります。

仕事の話も全然…聞いてもわからないですけど…でも愚痴とかそういう

ツカサ

キミハル

ツカサ

キミハル

キミハル

ツカサ

キミハル

ツカサ

キミハル

ツカサ

キミハル

マミコ

ツカサ

キミハル

ツカサ

マミコ

ツカサ

キミハル

マミコ

キミハル

マミコ

ツカサ

マミコ

ツカサ

のも全然なくて……まだ結婚したばかりですし、年も離れているんで、何て言うか、私に弱いところを見せたくないみたいで……やっぱり仕事、大変だったんでしょうか？

キミハル そうですね、立花さんは今回のプロジェクト・リーダーでしたから。

ツカサ 成澤さんも忙しかつたんですか？

キミハル ええ、それなりに……

ツカサ 毎日深夜になったり、土日も休めたり休めなかったり……

キミハル まあそうですね、でも立花さんがいらした時はただ指示に従っていれば良かったので……お休みになってからが、ちょっと……

ツカサ すみません。

キミハル いえ、奥さんのせいじゃないですし。

ツカサ 会社にもご迷惑をおかけしてるんですよ、きつと。

キミハル 僕も、怖くて連絡をとってないんですけど……とらなくちやとは思ってるんですけど……

マミコ そんなこと考えてないで治療に専念してよ。(ツカサに) ねえ？

ツカサ (少し笑う)……地元へ帰りたいみたいなんです。

キミハル え？

ツカサ はつきりとは言わないんですけど、会社を辞めて地元へ……鹿児島島の田舎のほうなんですけど……そこへ帰りたいみたいなんです。

キミハル え、それは知らなかった。

ツカサ 幼馴染みが小さい会社を始めるとかで誘われて……私に反対されるのがわかってるから言わないみたいで……駅前から少し離れると今でも蛍が飛んでいるような、そんな田舎なので……

キミハル へえ、蛍が。

ツカサ 私は一人っ子ですし、都内に両親が購入してくれた土地もあって……すぐにも家を建てたいんですけど、その話題になると彼は話を逸らしてしまつて……彼も私も思つたことをなかなか口にできない性格で……しかもお互いが弱っている時に揉めるとわかってることを口にすることは余計できなくて……

マミコ ……わかります。

キミハル ……

マミコ、立ち上がり、

マミコ あの、お話の途中で申し訳ないんですけど、私、入院の荷物を持って来な

ツカサ くちやいけないので……

キミハル あ、私ももう失礼します。

ツカサ 僕のほうは構いませんので。

マミコ お大事にどうぞ。

ツカサ ありがとうございます、奥様もお気をつけて。

マミコ じゃ。

キミハル パソコン。

マミコ わかってる。

マミコ、去る。

ツカサ すみせん、長くなってしまつて。

キミハル いえ、立花さんのことは僕も気になつてたので。

ツカサ ・成澤さんはバスルームに籠もつてらした時に、何を考えてたんですか？

キミハル 何って・・・何でしょう、か・・・あらためて聞かれると、よく覚えてないで

す・・・

ツカサ いえ、主人が今どういうことを考えているか、全然わからなくて・・・私、何

をしたらいんだろ・・・

キミハル 一緒に籠もつてみたら、どうでしょうか？

ツカサ は？

立花さんと一緒に・・・バスルームに籠もつてみたらどうでしょうか？

・・・

ツカサ 三十分でも一時間でも・・・あんな狭いところに二人でいたら、嫌でも何かし

ら話をするんじゃないかと。

・・・

キミハル 立花さん、話下手な人ですけど、やっぱり一番頼りにしているのは奥様だ

と思うんです。だから・・・

・・・わかりました。

ツカサ 何の説得力もないんですけど。

キミハル とんでもない、お話を伺えて本当に良かったです。・・・そうですよね、彼を

救えるのは私だけですよね・・・私が頑張らないと・・・

キミハルとツカサ、頷き合い、やがて屋上から去って行く。

屋上の照明が消えるのと前後して、病室が明るくなる。

すでに午後も遅い時間、ブラインドの隙間から射す陽光がほのかに紅い。

病室は静かで、波の音とエアープンプらしき音だけが低く響いている。

本間はいない。

その隣、バスタブ6に戻って来た小野瀬ユウイチがいる。

小野瀬のバスタブの縁からは人間の両足が飛び出ているが、上半身は見えない。

入口から小野瀬ナナミが売店の袋を手に入ってきて来る。
 妊娠七ヶ月。マミコよりお腹は小さいが、それなりに目立つ大きさ。
 ナナミ、小野瀬のバスタブに近づき、なかを覗き込む。
 物音をたてないように、ポリ袋の日用品をラックにうつし、
 ポットを持って再び病室から出て行くこうとする。
 ちようど入口からキミハル、入ってきて来る。
 ぶつかりそうになつて、

ナナミ すみません。

キミハル こちらこそ……(お腹に気づいて) 大丈夫でした？

ナナミ はい。(毛布の掛かった下半身に気づいてジッと見る)

キミハル ……今日からここに入った成澤です。

ナナミ あ、小野瀬といいます。

キミハル 今日、戻られた……

ナナミ やだ、皆さんに筒抜けなんですわね……出戻りですけど、よろしくお願ひしま

すうー(笑う)

キミハル (つられて笑う)

ナナミ 主人、今、寝ちやつてるので、また後でご挨拶を。

キミハル お疲れでしょうから……

ナナミ あたたた……(お腹を押さえる)

キミハル 大丈夫ですか？

ナナミ いえ、蹴られただけで……

キミハル 蹴りました、僕？ え、足、ないんですけど……

ナナミ ……

キミハル ……

ナナミ (笑う) 子供です、お腹の子が蹴ったんです。

キミハル ああ……

ナナミ (笑い続けて) すみません。

キミハル 何ヶ月ですか？

ナナミ 七ヶ月です。

キミハル そうですか、うちの妻はもうすぐ臨月で。

ナナミ えー、そうなんですか。

キミハル この産婦人科にかかってて。

ナナミ えー、私もですよ。

キミハル え、そうですか。

ナナミ うわあ、じゃ検診の時とかお会いしてるかもしれないですね。

キミハル 僕の入院の荷物を持って、もう一度来るはずなんですわ。

ナナミ そうですか、じゃまた後で……お会いするのが楽しみです。

ナナミ、部屋から出て行く。
 キミハル、バスタブへ移ろうとし、ナースコールの呼び出しボタンを押す。
 遠くで鳴り響くコール音。
 手持ち無沙汰のキミハル、小野瀬のほうをチラッと覗き見る。
 縁からはみ出た足。見えない上半身。
 キミハル、目を丸くし、慌てて少し近づいて、チラチラと何度も覗き見る。
 だんだんと近づき、やがて離れたところから首を伸ばすようにして、
 そつとバスタブの中を覗き込む。

キミハル (搾り出すように) ええーっ…

日和(声) どうしました、成澤さん？

キミハル ……

日和(声) 成澤さん、成澤さん、成澤さん！？

足音が近づき、入口から日和が走り込んで来る。

日和 どうしました？

キミハル ……日和さん。

日和 はい？

キミハル、日和を連れ込んで、小野瀬から見えないように仕切りカーテンを閉める。

キミハル 君さ、ちょっとね、説明が足りないような気がするんだよね。

日和 え？

キミハル そりゃもちろんそれぞれのプライバシーもあるから、ひとりひとりの病状を詳しく教えてくれとは言いませんけど、でも少しは事前に教えといてくれたっていいんじゃないかと…

日和 はあ…

キミハル とくに妻は身重ですから、あまり精神的なショックも良くないし、そういう僕自身がこんなショックだから説得力ないんだけど、やっぱりでも、一言くらい欲しかったなあ。

日和 何のことですか？

キミハル ……小野瀬さんです。

日和 あれ、僕言いませんでしたっけ、今日戻って来るって…

キミハル
日和
そこじゃないでしょう、言っておくべきポイントは？

キミハル
日和
(泣きそうに) 逆！

日和
は？

キミハル
日和
逆！ 上下、逆！

日和
は？

キミハル
だから… (自分の頭を触って) 人、(下半身を触って) 魚、ニン、ギョ！

あちらは (頭を触って) 魚、(膝を触って) 人…ギョ、ニン！

日和
ああ！

キミハル
何で教えてくれなかったんですか！

日和
そんなに珍しい症状でもないので、つい…

キミハル
ええ？

日和
まれに全身変わってしまう方もいるくらいですし…

キミハル
古賀さん？

日和
はい、そうです。

キミハル
そう、それもだよ、言っといて下さい。魚以外の人もいるって！ 誰が見たつ

て、あれじゃ普通、ただの観葉植物だと思っじゃないですか！

日和
しっ、聞こえますよ！

キミハル
…

日和
(古賀の様子を伺いながら) 植物じゃなくて、竜。

キミハル
あれじゃ普通、ただの竜だと思っじゃないですか！…ただの竜なんていま

日和
せん！

日和
落ち着いて、成澤さん。

キミハル
すみません…

日和
いえ、僕も至らない点があったようで申し訳ないです…悪気はなかったん

ですが…

キミハル
それはわかるんですけど…

日和
少し休まれてはどうですか？

キミハル
いえ、もうすぐ妻が着替えを持って来るので…その後で。

日和
そうですか…成澤さん、今日、初日ですもんね、すみません、もつとケア

をすべきでした。だいたい皆さん、初日はもつと混乱してパニックになっ

てるんですけど、成澤さんは落ち着いてらっしゃるので、つい大丈夫なよ

うな気がしてしまつて…今後はもつと気をつけます。何かあったらまた遠

慮せずに仰ってください。

ポットを手にしたナナミと、キャリーケースを引いたマミコが入って来る。

マミコ 沖繩行ってたのって、だんなさんだったんだー
 ナナミ うん、私は家でゴロゴロしてたけど。
 マミコ ちゃんと名前聞いておけば良かったねー
 ナナミ ほんとほんと。
 マミコ ねえ。
 日和 もう仲良くなったんですか？

日和、出て行く。

マミコ、カーテンを開けて、

マミコ キミくん。持って来たよ。パソコンも。
 キミハル おう、ありがとう。
 マミコ 聞いて聞いて、小野瀬さんね、両親学級で一緒の人だった。
 ナナミ そうなんです、びっくり。
 マミコ ほら、父親参加の沐浴実習あったじゃない？急に仕事が入って行けなかつたやつ。
 キミハル ああ…あれか。
 マミコ そこで一緒だったの、小野瀬さん。
 ナナミ へえ。
 最初に自己紹介もしたんですけど、いっぱいいたから、お名前はちよつと覚えてなくて。
 キミハル だんなさんもそこで会ってるんだ。
 マミコ え、あっそう。
 ナナミ その時はまだ…こんなじゃなかったの。
 キミハル ……
 マミコ (わざと明るく)うちだつて、その頃はこんなこと予想もしなかったよね？
 キミハル ああ、うん、もちろん。
 マミコ すごく手際良かったよね、だんなさん、助産師さんに褒められてた。
 ナナミ そんなことないよ、ガチガチで人形落としそうになったし。
 マミコ 私なんて落としたもん。
 ナナミ (笑って) うん、だから成澤さんの顔、覚えてた。
 マミコ 格好いいんだよ、だんなさん。
 キミハル へえ…
 ナナミ 嘘、嘘。
 マミコ 私はそれで覚えてたんだもん。彫りが深くてさ、なのにすっごい顔小さくて、モデルみたい。
 キミハル あ、そう…
 ナナミ 今はもうその面影もないけど…

マミコ ……あ、むしろ童話に出てきそうな感じになってるんじゃない？ 人魚姫の男版？

ナナミ ものは言いようだなあー

マミコ あ、ご挨拶しなきゃ。

ナナミ いいよ、うちのは喋れないから。

マミコ え、そうなんだ…

ナナミ うん、エラ呼吸だから。

マミコ エラ？ そういう症状もあるの？

ナナミ マミコ、ご主人、今、お休みになってるみたいだから…

マミコ もう起きてるかも。寝てても目を閉じないから、いつ起きたか、わかりにくいんだよねー

ナナミ、小野瀬のバスタブへ向かう。マミコもついていく。

ナナミ キミハル マミコ、ちょっと待って…

マミコ ユウイチ、起きてる？

マミコ、バスタブの縁から出ている足に気づいて怪訝な顔になる。
バスタブを覗き込んで、

ナナミ びっくりだよ、両親学級で一緒だった成澤さん、ご主人が今日からここに

入院されたんだって。

マミコ ……

ナナミの言葉に反応するように、小野瀬の足先がピクピクと動く。

ナナミ ほら、沐浴実習で赤ちゃん落とした…：そうそう、成澤さんっていうの。

ううん、奥さんじゃなくてだんなさん、入院したのは…

マミコ ……

ナナミ 覚えてるって…（笑いながら）手話じゃなくて、足話そくわ？ 適当だから私にもあんまり通じないんだけど。

マミコ ……

マミコ、無理に微笑むと、いきなり踵を返す。
 キミハルのところへ戻り、仕切りカーテンを閉める。涙ぐんでいる。

キミハル ……どうした？

マミコ ……

キミハル ……

マミコ 私、最低かもしれない。

キミハル え？

マミコ こっちじゃなくて良かったって思った…キミくんの上と下が…

キミハル ……

マミコ お腹に赤ちゃんいるのに…お母さんになるのに…なんかすごく私っ

て…ダメだ…

キミハル そんなこと…

マミコ キミくん、

キミハル ん？

マミコ 疲れちゃった…

キミハル ……

マミコ もう帰れば。ひとりで帰れる？

キミハル だって、ひとりで帰るしかないでしょう？

マミコ ……

キミハル 明日…

マミコ わかっている、産婦人科だろ？

キミハル 十時に待合室でいい？

マミコ ああ。

キミハル じゃ。

マミコ 少しでも変だったら、すぐ救急車呼べ。

キミハル うん、(ナナミに)…お先に。

ナナミ あ、はい、気をつけて。

マミコ、顔を隠すようにして病室から出て行く。
 入れ違いに入って来る日和。
 キミハル、上半身をパジャマに着替え始める。

日和 奥さん、大丈夫ですか？ 顔色、悪くなってたような…
 ナナミ すみませんでした。

キミハル

え？

ナナミ

驚かせてしまったみたいで……てっきり日和さんから聞いてると思って……

日和

何ですか？

ナナミ

上半身が魚になってるって……言っておいてくれたら良かったのに、日和さん。

日和

ああ、すみません。

ナナミ

もう軽いなあ、相変わらず。

日和

いやいや、本当すみません。

キミハル

いえ……

ナナミ

ギョツとしますよね、そりゃ。

日和

あ、今の洒落ですか？

ナナミ

は？

日和

(小野瀬を指して) 魚^{ギョ}を見て、ギョツ！

キミハル

日和さん、それはちよつと……

ナナミ

(爆笑) あはは、本当だあ！

日和

(笑って) あれ、狙ったんじゃないんですか？

ナナミ

ひどーい、私、駄洒落なんて言わないよ……

キミハル

……

日和とナナミ、しばし笑い合っている。

キミハル、キャリーケースからノート型パソコンを取り出す。

膝に置いて電源を入れる。

日和

あの、前にも言ったと思いますけど、できれば仕事のことは……

キミハル

わかってます、スケジュールの確認をするだけです。

キミハル、少しだけ作業をするが、すぐに手を止める。

日和

終わりですか？

キミハル

いえ……内容が全然、頭に入らなくて……頭の中までおかしくなったのかな。

日和

え？

キミハル

そういう症状もあるんですか？ 読解力も集中力も、魚並みになってしまいうとか……

ナナミ

ああ！ 今、私もそうなんです！ 妊娠すると記憶力や集中力が落ちるんですって。本を読んでも、字は読めているのに全然内容が頭に入らないん

です。たぶん赤ちゃんが「自分を大きくすること以外に頭を使うな」って
言ってるんだと思いますけど。

キミハル

……

ナナミ

だから成澤さんも、今は回復することだけを考えなさい、って、体が言っ
てるんですよ、きつと。

キミハル

……

日和

ナナミさんの言う通りです。知能が魚並みになるような、そんな症例はあ
りませんから。大丈夫です、ゆっくり休めば回復しますよ。大丈夫、大丈

夫！

ナナミ

軽いなあ。

日和

ええっ？

キミハル

……

キミハル、仕切りカーテンをすべて閉める。

やがて大きな水音とともに、水しぶきがカーテンレールの上まで跳ね上がる。

日和とナナミ、その水しぶきを見上げて、

暗転

◇ 4・産婦人科診察室 ◇

青山とマミコ・車椅子のキミハルが向かい合って座っている。

青山　ご相談の件ですが…

キミハル　はい。

青山　他の医師や助産師、小児科医とも検討しました結果…

キミハル　はい。

青山　やはり、立ち会いはちよつと難しいのではないかと。

キミハル・マミコ　えっ。

マミコ　どうしてですか？

キミハル　田原坂先生のほうからは、立ち会っても構わないと許可を頂いたのですが。

青山　はい、先生には私からも相談したんですけどね…

マミコ　それでも駄目な理由は何ですか？

青山　やっぱり、その…

キミハル　はい、

青山　申し上げにくいのですが、

キミハル　仰って下さい。

青山　結局のところ…人間なのか、魚なのか、というところなんです。

キミハル　…

青山　もちろん、成澤さんの人格には何の問題もありません、あくまでも肉体と

して、ということなんです。人間ならば当然、立ち会いもできますが、魚

類はもちろん立ち会えませんが。その点で混乱してしまい、確認のために先

生にも話し合いに来ていただいたのですが…

マミコ　先生は、何て？

青山　人間としては重症だが、人魚としては健康そのものだ、と。

キミハル　…

青山　余計、混乱してしまいました。

マミコ　はあ…

青山　病院全体としてペットや動物の持ち込みは禁止していますから、果たして

人魚がそれに該当するかどうか、その点が難しく…

キミハル　持ち込みどころか、今もこうやって病院に入ってますよ、だいたい入院し

ているわけですし。

青山　ですから、産婦人科としての見解をどうするか、ということでした…

マミコ　…たとえば介助犬は入れるわけじゃないですか。

青山　それはまあ…

マミコ　つまり、動物でも特例があるということですよ。

青山　介助犬と魚類とは、だいぶ話が違いますし…

マミコ 受付の水槽にいるじゃないですか。

青山 受付にしかいません。

マミコ ……

キミハル じゃ、もし僕の下半身が介助犬だったら、まったく問題なかったということになるんでしょうか？

青山 それはちよっと、論点が…

キミハル じゃ、もし僕の上半身が介助犬で、下半身が人間だったら、それは二本足で立つんだろうか、四本足なんだろうか…

マミコ ちよっと落ち着いて…

キミハル じゃ、もし、妻の出産にまったく興味のない体の半分が介助犬の夫と、立ち会いたくてたまらない体の半分が魚の夫だったら、どちらのほうが立ち会える可能性が高いですか。

青山 ええと…

マミコ ……

キミハル じゃ、もし、上半身は妻の出産にまったく興味なくて、下半身は立ち会いたくてたまらない人間の夫だったら…それはつまり完全に人間なわけだから何の問題もないんだな…

マミコ (なだめるように) うん。

キミハル 何を言ってるんだ、俺…

マミコ (遮って) あの、主人がリハビリで使っているあのプール、昔は産婦人科で水中出産に使っていた、って聞いたんですけど…

青山 ああ…ええ、そうです。

マミコ 今、やってないんでしょうか？

青山 えっ？

マミコ いえ、もし水中出産ができるなら、主人もこの姿のまま立ち会えるんじゃないかと思って…立ち会う？ 立ってないですよ、その場合。何て言うんでしょう、泳ぎ会い？ 潜り会い？ あれ、立ち泳ぎは立ってるってことになるの、ならないの…？

キミハル (なだめるように) うん。

マミコ 何を言ってるんだろ、私…

青山 お気持ちはわかりますが…もう十年ほど前にやめてしまったんです。水中出産は衛生上の管理がなかなか難しく…すみません。

マミコ ……そうですか。

青山 こちらでも、通常の立会い出産をですね、もう少し検討してみますので。ぜひお願いします。無理を言っすみません。

マミコ いえ、我々としてもご希望通りのお産をしていただきたい気持ちはあるのですが…はつきりしなくて、本当にすみません。

青山 ともでもないです、頼りにしています。

マミコ では、また来週。それまでには何とかはつきりさせておきます。

マミコ よろしく願います。

青山、深い溜め息を吐く。

暗転

◇ 5・バスルーム③ ◇

キミハルが入院して三日目。昼近く。
古賀の横でサトシが雑誌を読んでいる。
海水プールでの治療を終えたキミハルと本間、車椅子で入口から入って来る。
首からゴーグルを掛け、濡れた髪をタオルで拭いている。

本間 だからお前だつて。
キミハル 俺じゃないと思うけどなあ。
本間 こうやって潜水して、水面を二人で眺めたじゃん。
キミハル 何のために？
本間 友情の確認？
キミハル ぜったい俺じゃないって。だつてお前とよく話したのって一学期の最初だけだろ？
本間 そうだっけ？
キミハル 夏休みはずっと部活だったし、俺は。
本間 そうかなあ…おう、サトシくん。
サトシ あ、こんにちは。
キミハル こんにちは。

本間、携帯のメールチェックを始める。

サトシ 海、行って来たんですか？
キミハル うん。
サトシ 小野瀬さんは？
キミハル まだ泳いでる。
サトシ だいぶ回復してるって本当ですか。
キミハル そうみたい。
サトシ 意外と沖縄の効果があつたとか。
キミハル うん、顔もだんだん彫りが深くなってきた気がするよね。
サトシ ちよつとこう、目玉が寄ってきましたよね、真中に。
キミハル 本当はかなり男前らしいよ。
サトシ え、そうなんですか。
キミハル うちのヨメが前に会ったことがあつて。
サトシ へえ、見てみたいっすね。
キミハル …でも、偉いね。

サトシ 小野瀬さんの奥さんですか？
 キミハル いや……小野瀬さんの奥さんも偉いけど……サトシくんとお母さん。栃木と

サトシ か群馬とかって聞いたけど、ほとんど毎日来てるじゃない？

キミハル ああ……僕、今、都内に独り暮らししてて。大学あるんで。

サトシ ああ、そうなんだ。

サトシ 母もその部屋に泊まってて。時々は家に帰りますけど。

キミハル そうか、そうか。

サトシ うちの親は成澤さんの奥さん、褒めてましたよ。

キミハル うちに近いから。

サトシ でもあんなお腹大きいのにちゃんと来るなんて、愛があるからだって。

キミハル そんなこと言ったら、お母さんのほうが愛があるでしょ？

サトシ どうなんでしょう……さすがにもう疲れてるみたいで……俺も疲れてますけど。

キミハル ……

サトシ いや、うちの父親、これが初めてじゃないんで。

キミハル そうなの？

サトシ 若い頃から時々こうなってたみたいで……俺は最近まで知らなかったんですけど……

キミハル お母さん、苦労したんだ？

サトシ たぶん……あんまり言わないですけど。うちの父親、ワガママだし。この前戻った時だって、礼を言うどころか、勝手に入院させたって怒鳴り散らしただけで……

キミハル 厳しい人なんだ？

サトシ 子供なんです、子供の俺が言うのも何ですけど。

キミハル ……（じつとサトシを見ている）

サトシ ……何ですか？

キミハル いや、俺ももしかしたら子供にそんなこと言われるのかなあと……

サトシ すみません、俺、気が回らなくて……

キミハル いやいや、日和さんに比べたらサトシくんは気を回しすぎだよ。

サトシ ……そういえば成澤さんは沖繩行くんですか？

キミハル ああ、まだ考え中。

サトシ 行けばいいのに。

キミハル 予定日が近いから、ちよつとね……

サトシ え、お前、行かないの？

キミハル 何だよ、唐突に。

本間 俺、お前と一緒に行くつもりなんだけど。

キミハル 勝手に決めんな。

サトシ でも治る可能性があるんなら、試したほうがいいんじゃないですか。

キミハル 何とかここで早目に治すつもりでいるから……

本間 えー……

キミハル お前は行くんだろ？
 本間 金があれば。
 キミハル 金はあるだろう、本間クリニックには。
 本間 俺にはない。
 キミハル 事務長なんだろ？ 獣医はできないけど事務関係の責任者だって…
 本間 まあ表向きは。
 キミハル なんだよ、それ。
 本間 うちの親に沖縄の治療費を頼んでみたら…（携帯のメールを見せる）
 キミハル ……
 本間 ドライヤー、やってくるわ。

本間、出て行く。

サトシ 何て書いてあったんですか？
 キミハル …「お前の嘘にはもうつき合う気はありません」って…
 サトシ なんか、いろいろあるんですね…
 キミハル 馬鹿にも利口にも徹しきれないタイプっていうか。
 サトシ バツサリですね。
 キミハル ひとのことはね…結局は同じ穴の…同じバスタブの人魚、か…
 サトシ ……

二人が話している間に、入口からスーツ姿の立花ヒロシが入って来る。
 立花、キミハルに気づいてじっと眺める。キミハルは気づかない。
 先にサトシが気づいて、

サトシ あの…
 キミハル ん？

キミハル、振り返る。

キミハル ……
 立花 よつ。
 キミハル 立花さん…
 立花 悪い、黙って入って来て。

立花、キミハルの魚の尾をじっと見つめる。
 キミハル、一瞬隠そうとするが、すぐに諦める。
 しぼし沈黙。

キミハル　奥さんが、先日……
 立花　ああ、すまなかった、急に押しかけたらしいな。
 キミハル　……
 立花　そうか……下半分か……
 キミハル　え？
 立花　じゃ、やっぱり俺はちよつと変わっているのか。
 キミハル　……
 立花　入院することになった、ここに。
 キミハル　ええっ？
 立花　（バスタブ4を指して）、誰かいる？
 キミハル　いえ、空いてます……

立花、バスタブ4の縁に腰掛け、タバコを取り出すが、

立花　ああ、駄目か……
 キミハル　喫煙所ありますよ、屋上に。
 立花　そこで吸ってきたところだから。
 キミハル　そうですか。
 立花　上からプールが見えた。すごいな、スイスイ泳げるんだな、お前。
 キミハル　いつからいらしてたんですか？
 立花　ちよつと時間が空いたから、三十分くらいボートとしてたんだ。
 キミハル　あ、いえ、病院にはいつ？
 立花　ああ……今朝。朝一番で来た。
 キミハル　おひとりで？
 立花　いや……

サトシ、軍手をしてサボテンを箱に移し、それを台車に載せる。

サトシ　成澤さん……僕、散歩に出ますから。タバコいいと思いますよ、本間さんも

立花

時々ここで吸ってるし。

キミハル

いや、そんな、いいですよ。

サトシ

こっちが外に出るから、気にしないで。

車椅子に乗るのも大変だし。ちょうど日光浴もさせたかったんで、本当に、どうぞ。

キミハル

悪いね、ありがとう。

立花

すみません。

サトシ

いえ。

サトシ、台車を押して部屋から出て行く。

立花

業者のバイトくん？ 観葉植物の？

キミハル

ええと……まあ、そういうことです。

立花

他の人はいないの？

キミハル

いま治療中で。しばらく戻らないと思いますけど。

立花

そう……（タバコを取り出して）じゃ、こっそり、いいかな？

成澤

どうぞ。

立花、窓に近づくともブラインドを上げて、窓を少し開ける。

古賀のバスタブの縁に腰掛けると、タバコを取り出し、火をつける。

立花

奥さん、もうすぐ臨月なんだって？ 大変だな。

キミハル

ええ、まあ……

立花

子供でもできたら、うちももう少し何とかなったりするのかな……

キミハル

いかがですか、体調は……って僕が聞くのも何ですけれど……

立花

ん？

キミハル

あまりお変わりのないように見えますが……

立花

……

キミハル

……

立花

ケツが光る。

キミハル

……は？

立花

ケツが、光る。

キミハル

……

立花

お尻が光ります。

キミハル

聞こえてます！

立花

そういうことなんだな。

キミハル は？

立花、キミハルに近づいて来ると、タバコを持たせ、周囲を気にしながら仕切りカーテンを閉める。

キミハルに背を向けてベルトを緩め、ストラックスのフアスナーを下ろし、自分の尻をキミハルに覗かせようとする。

わけがわからず、ためらうキミハル。

すると、ストラックスの中で、立花の尻がほのかに点滅する。

キミハル、啞然としてその光を眺める。

しばし光が点滅した後、立花はストラックスを元に戻し、

再びキミハルからタバコを受け取る。

キミハル

……

立花

蛍になっちゃった。ケツだけ。

キミハル

えっ……

立花

先生にそう言われたよ、ちょっと珍しいらしい。

キミハル

……

立花

お前みたいのが普通らしいよ……普通って言ったって普通じゃないんだけど……ヨメさんも普通に下半分だった。

キミハル

奥さんが……どうしたんですか？

立花

お前がアドバイスしてくれたんだって？俺と話合ってみたらどうか、って……

キミハル

あ……すみません……

立花

いや、むしろ面倒なことに巻き込んで悪かった。……道理でおかしいと思っただ、いきなり「自分もここに籠もる」って言い出して風呂場に入って来てさ。こんなモコモコした布団をバスタブに無理やり押し込んで、潜り込んだと思ったら、顔だけ出してジツと俺を見上げてるんだよ、瞬きもしないで、ジツと……怖くなって、風呂場から飛び出したよ、何週間も出られなかった風呂場から、見事に五分で出られた、自分でも驚いたよ……

キミハル

……奥さんはそのまま？

立花

そのまま籠もってた、今朝まで。

キミハル

……

立花

変な話だが、自分が籠もってる時は何とも思わなかったが、相手がそうになると心配になって来るもんだな。それでとりあえず救急車呼ぼうと思ったから「それは絶対やめてくれ」って……世間体とかそういうの気になるやつだから……「そんなことするくらいなら自分から行く」って、この病院とお前のことを話してくれた。

キミハル

……

立花 今、点滴受けさせてるよ、ろくに飲み食いしてなかったからな。
 キミハル それじゃ、入院するって言うのは…

立花 ヨメさんだ。

キミハル ……

立花 個室をもらえることになった。一応、女だし。

キミハル 立花さんは？

立花 俺は通いで治療するよ、今のところ日常生活に支障はないし。ただ光るだけだから。

キミハル ……

立花 ま、そんなわけだ…

キミハル ……

立花 悪い、見舞いなのに手ぶらで来ちゃって。

キミハル ……

立花 仕事のほうも世話になりっぱなしなのに…

キミハル ……

立花 (頭を下げて) 本当に申し訳ない…

キミハル やめて下さい、立花さんのせいじゃありませんから…

立花 俺が休んだからだ。

キミハル そんなことないです。

立花 そんなことあるだろう。

キミハル もともと僕に体力がなくて…

立花 大変なのはわかっていたんだ。

キミハル 仕事ですから、大変なのは当たり前ですから。

立花 だからって、魚になっちゃうことはないだろう？

キミハル ……

立花 いくら仕事だからって、魚になっちゃうまでやらなきゃいけないことなんて、そんなのあるはずがないんだ。

キミハル ……

立花 つて、俺は思う。

キミハル ……

立花 ……

キミハル ……

廊下から本間が少し慌てた様子で入って来る。

立花、咄嗟に窓辺に置いてある空の植木鉢でタバコを消す。

本間 成澤… (立花に気づいて曖昧に会釈)

キミハル どうかしたのか？

本間 なんか、入院する予定の人が消えたとかで、日和くんが大騒ぎしてる。

キミハル え？

立花 え？

本間 点滴してたらしいんだけど、針を抜いてどこかに行っちゃったらしくて。

キミハル 立花さん……

立花 ……

本間 そんなに遠くへは行けないはずらしいんだけど……

キミハル ……(立花を見る)

立花 ……(頷く)

本間 見かけたら至急知らせてくれ、って……で、その人の下半分は魚じゃなくて……

立花 ヤドカリ、です。

キミハル え？

立花 ヤドカリ。

本間 ……はい。

立花 うちの家内です。

ツカサ(声) ヒロシ〜！

どこからかツカサの声が響く。

声は前シーンとはうってかわって低く野太い。

三人が周囲を見回すと、突然、バスタブ2からツカサの上半身がヌツと現れる。

立花 ツカサ！

ツカサ 何でこんなところにいるんだ……

立花 それは俺が聞きたい。何してるんだ、お前！

ツカサ 寝てた。

立花 はあ？

ツカサ 悪い？

立花 点滴はどうしたんだよ？

ツカサ 針、引っこ抜いて来た！

立花 なんて……

ツカサ 勝手に入院の手続きなんてしやがって！

立花 勝手に……って、先生の話、聞いただろう？

ツカサ 入院するなんて一言も言っていないだろうが。

立花 しなきゃどうしようもないだろう。

ツカサ いやだ！ 帰る！

立花 帰るやつが何でこんなところで寝てんだ？

ツカサ 疲れたんだよ！ ここまで来るだけで大変なんだよ！

立花 そんな体で家に帰ってどうする！

ツカサ

…でも、帰る！

立花 また風呂場に布団持ち込んで、潜り込んでずっとボーっとして過ごすのか、お前は。

ツカサ

あんただって、やってただろう、ずーっと！

立花

……

ツカサ 自分はずーっとそうやってたくせに、何で私がやろうとすると邪魔するんだよ！ おかしいだろ、そんなの！ どうせ私をここに押し込んで、自分はまたバスルームでのんびりタバコを吸いながら、お尻ピカピカ光らせて呑気に過ごそうとしてるんだろう！

立花

……

ツカサ

ぜったい、帰る！

立花

落ち着け…

ツカサ

触るな！ スケベ！

立花

好きで触ってるわけじゃない、そんなグニヤグニヤしたの…

ツカサ

……

立花

……

ツカサ

あー！ グニヤグニヤって言った！

立花

ごめん…

ツカサ

グニヤグニヤって言った、グニヤグニヤって言った！

立花

だから、悪かった…

ツカサ

ケツ蛭！

立花

そういう言い方は…

ツカサ

ケツ蛭！ 中途半端なケツ蛭！

立花

うるさい、黙れ！ 点滴しに戻るぞ！

ツカサ

帰る！ 帰るって言うってんだろ！

日和、
駆けつける。

日和

ああ、立花さん！ 良かった！ こんなところに…

立花

すみません、勝手に針を抜いて…

ツカサ

もう帰りますから。ほら、とつとと車、回して来いよ！

立花

何様だ、お前は！

ツカサ

黙れ、うるさい！

立花

お前がうるさいよ！ 他の患者もいるんだから、静かにしろ！

ツカサ

あんたなんてタバコ吸ってたろ！ くっさいよ！

立花

これは潮の香りだ！

ツカサ

どこにヤニくさい海があるんだよ！

立花

静かにしろって！

ツカサ

それ言えば勝てると思ってるんだ！

立花

お前、いい加減にしないと……

日和

ちよつと落ち着いてください、二人とも！ほら、だんなさんも手を離して！

立花

……

本間

とりあえず、宿になるものを探したら？

キミハル

え？

日和

宿？

本間

ヤドカリなんですよ、下が落ち着かないんじゃない？

日和

えっ……

本間

柔らかくつて無防備なんだよ、だから巻貝とかを背負って棲家にしてるわけ。奥さんがいらついているのも、下半身が外に出ているからじゃないの、つて思つたんだけど、違う？

ツカサ

……

本間

もつと狭いところに潜り込みたいんじゃないの？

ツカサ

……

本間

宿りたいんじゃないの？

ツカサ

……宿りたい……

本間

ん？

ツカサ

宿りたい〜宿らせて〜！

本間

な！

キミハル

さすが動物病院。

本間

そこらの小学生でも知ってるよ！

日和

何か探しましょう！

立花

どういう物ならいいんだ？

本間

普通なら巻貝とかカタツムリの殻とか……

日和

そんな巨大な貝もカタツムリもないですよ。

キミハル

巻いてないといけないのか？

本間

どうだろう？

立花

(ツカサに)巻いてないと駄目なのか？

ツカサ

巻いてるのがいい〜

立花

今はちよつと無理なんだよ、後でまたちゃんとした巻貝、探してやるから。

ツカサ

うーん……

日和

じゃ、とりあえず何か大きな器みたいなもの……

キミハル

バスタブの蓋はないの？

日和

ないんです。

本間

惜しいなあ。

キミハル

他にヤドカリの患者さんは？

日和

初めてなんで……

立花 布団ないですか？家ではずっと布団に潜ってて……
聞いて来ます。

日和 ツカサ イヤ！病院の布団なんてイヤ！お家の羽毛布団じゃなきゃイヤ！

立花 何言ってるんだ、お前は！

キミハル （自分のスーツケースを指して）これどうですか？なかは空なんで。

日和 ああ！

立花 いいかもしれない。

成澤 どうぞ。

成澤 ブランドは？

ツカサ え？

ツカサ ブランド、どこの？

成澤 ええと……どこだろう……そんな高級なものでは……

立花 だから何言ってるんだ、お前は！

ツカサ スーツケースはヴィトンじゃなきゃイヤ！

立花 うちにだって、ないだろうが！

ツカサ 持ってるもん！

立花 は？いつ買ったんだよ！

ツカサ ……

立花 黙るな！

ツカサ 独身の時に買ったんだもん……

立花 声が小さくなったぞ、おい。

ツカサ いいよ、もう！どうせ私のことなんてどうだっていいんだから！

立花 誤魔化すな！

ツカサ 何それ！今まで私が何を買ったって興味なんてなかっただろが！

立花 買ってること自体、知らなかったよ！

ツカサ だって一緒に買い物に行く時間も作ってくれなかったじゃないか、仕事だ

ツカサ の、田舎に行くだの、そんなのばっかりで！

立花 仕方ないだろう……

ツカサ ……私はあんたの田舎なんて、ぜったい行かないから！

立花 ……

キミハル 地元に戻られるんですか？

立花 いや、幼馴染みが起業するって言うんで、声をかけられて……まだ決めてないけど。

ツカサ 嘘、あんたの中ではもう決まってるじゃないか！

立花 そんなことはないよ、お前とこれから相談して……

ツカサ 私はぜったい行かない！

立花 ……

ツカサ ……

立花 ……

ツカサ ……

私にだって仕事がある！

立花 わかっているよ。

ツカサ 家を建てたい！ 子供は育児休暇を交代でとって育てる！

立花 わかっている…

ツカサ ぜったいに田舎には帰らない！ 親とも同居しない！

立花 言ったよ、あの時は確かにそのつもりだったから…

ツカサ 隠し事はしないで、何でも話し合う！

立花 ……

ツカサ …… 仕事が大変だから、そのせいかと思ってた。でも違うじゃない、成澤さ

んのところは、それでもうまくやってるじゃない？

キミハル え、うち？

立花 確かに鹿児島のことはまだちゃんと相談してなくて、それは俺が悪いと思

う。だけど生きていければいろいろ事情だって変わってくるだろう、それを

少しずつ譲り合って生きていくのが夫婦だし、家族なんじゃないか。

ツカサ どこまで譲ればいいのか？ どこまでその事情に付き合わなくちゃいけな

いのよ？ 仕事が大変なこと？ その会社をやめることも？ 田舎で何だ

かわからない事業を始めることも？ バスルームに何週間も引きこもるこ

とも？ 蛭になってピカピカ光ることも？ 夫婦になったら全部つき合わな

くちゃいけないの？

立花 それじゃまるで俺が何一つ、お前に譲ってないみたいじゃないか。それな

ら、俺だって何でヤドカリにつき合わなくちゃいけないんだよ？

ツカサ ……

立花 ……

ツカサ やっぱりする！

立花 帰れ帰れ！ ひとりで帰れ！ 這いつくばって帰れ！

日和 奥さんは病人ですから。

立花 俺だって病人だよ！

キミハル 立花さん、落ち着きましょう。奥さんはいつもの奥さんじゃないんですか

ら。

立花 ……

本間 日和くん、早く何か探して来て。

日和 ちよっと待っていてください、何かこう、大きめの、器のようなモノですよ

ね…

そこへ、サトシが台車を押し、廊下下手から帰って来る。

騒ぎに気づき、怪訝な顔で病室へ入りながら、

サトシ ……入ってもいいですか…

日和 あ、ちよっと今、取り込み中で…

立花

・・・それだ！

立花、ものすごい勢いでサボテンに近づくと、サボテンを箱から引っこ抜いて投げ捨てる。

立花

これに入ってみろ。

サトシ

父さん！・・・ちよつと、どういうことですか、これ！

日和

ごめん、後で説明するから・・・

ツカサ

こんなの、ぜったいヤダ！

立花

いいから！

日和

手伝います！

立花と日和、バスタブ2の仕切カーテンを閉める。

キミハル

あの人、ヤドカリでさ・・・

サトシ

え？

キミハル

俺の上司の奥さんなんだけど・・・ちよつとだけ、あれ貸してあげてくれない

サトシ

かな？ 何かに罠らないと落ち着かないらしいんだ。

サトシ

それならそうと、先に言ってくれば・・・

キミハル

ありがとう、ごめん。

サトシ、釈然としない顔でサボテンを抱え、バスタブに戻す。

仕切りカーテンが開き、箱に入ったツカサが現れる。

上半身だけを出し、とてもリラックスした表情になっている。

ツカサ

・・・お騒がせいたしました。

日和

とりあえず、点滴に戻りましょうか。

ツカサ

はい、本当にすみません・・・

立花

入院はどうする？

ツカサ

・・・

立花

お前が本当に嫌ならやめよう。反対に俺が入院してもいいよ、もし俺と家で顔をつき合わしたくないなら。(手をブラブラと振る)

ツカサ

・・・

日和

手を、どうか？

立花 ああ、トゲが刺さったみたいで……サボテンの。
日和 ああ……
ツカサ 痛いのに……？
立花 ちよつと……それよりどうする？
ツカサ ……少し考えてみるもいいですか？
日和 じゃ点滴終わるまでに。
立花 すみません。
ツカサ すみません。
日和 いえいえ、とんでもない。じゃ、行きましょうか……
ツカサ あの……
日和 はい。
ツカサ 主人の手、診て頂いていいですか……
日和 ああ、はい。
立花 いいから、自分のことを何とかしろ。
ツカサ ……

ツカサ、もう一度、皆に深く一礼し、日和が台車を押して出て行く。

立花 ありがとうございます……成澤、すまん、本当に。
キミハル いえ、奥さん、落ち着いて良かったです。
本間 大変ですね、歳が離れた夫婦ってのも。
キミハル 歳は関係ないだろ、うちだってケンカするし。
本間 おう、それすら自慢に聞こえる。
キミハル 何だそれ。
本間 俺も誰かとケンカしたいなあー
キミハル いつでも代わってやるよ。
本間 おう、また自慢だよー
立花 ……初めて怒鳴られた。
キミハル え？
立花 初めて怒鳴られたし、初めて怒鳴った。今頃になってドキドキしてきた……
キミハル ……
立花 ……じゃ奥さんもいろいろ溜まってたんじゃないですか？
本間 うん……
立花 立花さんも……
立花 うん……（心臓を叩いて）うわ、止まらない、止まらない！
本間 大丈夫ですか、座ります？
立花 あ、なんかすごく光りたい！光っていいか！

立花、バスタブ4のスペースに入り、仕切りカーテンを閉める。
カーテンの裏から光がほのかに数回、点滅する。
やがて立花、カーテンを開けて出て来る。

キミハル 落ち着きました？

立花 ああ。

本間 え？ え？

キミハル まあ、そういうことなんだ。

立花 (サトシに) すみません、少しの間、さっきの箱、お借りしていいですか？

サトシ あ、はい。

立花 サボテン、大丈夫でした？

サトシ ええ、まあ……

立花 もし痛んでいるなら、うちで買い取りますから。

サトシ はい？

立花 商品にならないようなら、買い取りますから。

キミハル 立花さん！

立花 なに？

キミハル あの、じつは彼は、業者さんではないです。

立花 ん？

キミハル 詳しくはメールしますから……

立花 あ、そう……

キミハル とにかくあの……お大事に。お二人とも。

立花 お前のところもな。

立花、部屋から出て行く。

暗転。

◇ 6・バスルーム④ ◇

病室でマミコ、ナナミ、ノリエがお茶を飲みながら話している。キミハルと本間は外へ出ている。小野瀬はバスタブで昼寝中。傍らに台車に乗ったサボテン、ルイ・ヴィトンのスーツケースから上半分を覗かせている。

ナナミ
ノリエ

いいなあ、ラッキーじゃないですか。
こつちが恐縮しちゃうわ、わざわざこんなスーツケースをくださって。あんな箱と交換に：サトシに相談したら「いいからもらっておけ」って言うから頂いてしまったけど…

ナナミ

いいんじゃないですか。
義理堅い方たちなのね、挨拶もきちんとしてらして…

ノリエ

(サボテンの折れている箇所に着いて)そこ、どうかされたんですか？
ああ、ここね、可哀想でしょう？ たぶんサトシが乱暴にしたんだと思うんだけど…本当にもう男の子は荒っぽくて困っちゃう。

マミコ

…男の子ってやっぱり荒っぽいですか？

ノリエ

荒っぽいわよー。お子さん、性別はもうわかってるの？
たぶん男の子って言われてて。

ナナミ

えー、性別聞いているんだ！
うん。

マミコ

うちは聞かない方針。

ナナミ

それもいいね、産んでビックリみたいなの。
楽しみでいいわね。

ノリエ

あ、そういえば立会いのことはどうなったの？
んー…

マミコ

やっぱり難しそう？
だね…

ノリエ

立会い？
成澤さんのとこ、ご主人がお産の立会いを希望してるんです。

ナナミ

でもちよつと難しそうで…
何で？入院してるから？

マミコ

魚類はちよつと…って言われて。

ナナミ

…
まあ…
成澤さんは上半身が元のままだから悩むよねえ。うちなんて最初から諦め

ノリエ

ちやつたけど…
ご主人も希望してたの？

ナナミ はい、とても楽しみにしてたんですけど…ま、仕方ないです。

ノリエ 産まれるまでに退院できるといいわね。だいぶ回復してるんでしょう？

ナナミ だんだん沖縄の効果が出て来たみたいで。

マミコ やっぱり効果出るの？

ナナミ 何かスツキリしてみたんだよ、キレイな海を思い切り泳いで。

マミコ つまり、満足するまで泳げば治るの？

ナナミ どうなんだろうねえ、そのへんは私にはよくわからないんだけど。でもあ
あいう姿になったってことは、やっぱりなんかこう、スイスイ〜ッとした
かったんじゃないのかな？

マミコ スイスイ？

ナナミ そう、何ていうか、こう地平線の向こうへ向かってスイスイ〜ッみたいなの。

ノリエ まあね…でも私だったら鳥になりたいわ。

ナナミ いいですね、私も飛びたい。今はもう自分が重くて重くて。ジャンプなん

でもう何ヶ月してないんだろ。マミコさんも飛びたい？

マミコ 私は…そういうこと考える余裕もなくて…

ナナミ ……

マミコ 現実的なことで頭が一杯で。お産はどうなるんだろうとか、もしキミくん
がこのままだったら、ひとりで子育てできるんだらうとか、お金のこと
はどうしようとか…

ノリエ それはそうよね…

ナナミ だんなさんと相談してる？

マミコ ううん、何か言い出しにくい感じで…

ナナミ えー、何で？ 成澤さんは喋れるんだから、話し合いなよ！

マミコ ……

ナナミ でも私もね、めちゃくちや悩んでるんだー

マミコ そうだよね…

ナナミ 二人目どうしよう、って。

マミコ え？

ナナミ 私ね、年子が夢だったの。だから、どうしようかなあって…（声を落とす
て）成澤さんはどうなの？ 子供って作れるの？

マミコ まあ…

ノリエ は？

ナナミ ユウイチは、たぶん作れるらしいのね、先生に聞いたら男性としての機能
は大丈夫みたいだって。でもさ…気分的にちよつとね…頑張って上半身
を見なきゃいいのかもしれないけど…あ、ちよつと想像しちゃった！

マミコ やめてよ、こんなところで。

ナナミ あー、胎教に悪い！

マミコ そこまで言ったら可哀想だよ。

ナナミ 私もそのへんがいつももどかしいんだ…「ユウイチは病気で仕方がないの
に、上半身がイヤだからエッチできないとか考えてる私って心が狭い？」

とかって思っちゃって・・・
いや、狭くないと思うけど。

成澤さんは顔も元のままだからいいよね、肺呼吸だし。
うーん、そんなこと考える余裕がなかったけど・・・たぶんキミくんは無理じゃないかなあ。

そうなの？

魚って体外受精じゃん、こうバーツてメスが卵産んで、そこにバーツてオスが後から・・・

ああ、テレビで鮭がよくやってるやつ？

そうそう・・・（不意に真顔になって）・・・本当にそんなだったらどうしよう・・・あ、想像しちゃった、リアルに・・・うわ！

だめだめ、想像しちゃ！

あ、胎教に悪い！胎教に悪い！

（مامミコのお腹に向かって）パパはすごくステキな人だよ！もちろんママも！

（ナナミのお腹に向かって）キミのパパもママもステキ！大丈夫、大丈夫！

大丈夫、大丈夫・・・（お腹をじつと押さえる）

だいじよう、ぶ・・・（お腹をじつと押さえる）

・・・お茶、もう一杯煎れましょうか？

あ、すみません。

ごめんなさい、馬鹿な話してて・・・

いえいえ、若くて羨ましいわ。

ノリエ、茶を淹れる。

古賀さんのご主人は今回が初めてじゃないって聞いたんですけど・・・

ええ、そうね、若い頃から時々。

・・・看病が面倒になったことってないですか？

（笑って）面倒になるほど看病らしいこともして来なかったし・・・今まではずっとこのまま庭の隅に放っておいたから・・・

へえ。

主人の両親には相談したんだけど「そういうこともよくあることだから」って、それだけで。だから、まあそんなに珍しくないことだと思ってたのよね。別に本人が痛がるとか苦しがるとかいうこともないし、しばらくしたらまた元に戻って普段通りの生活が始まるし・・・本人も何か別のものになってるっていう自覚はあるから、いついなくなってもいいように、幼稚園の仕事のことも私にわかるように書いておいてくれたりね。先生たちやサトシに主人がいらない嘘の理由を言うのがちよつと心苦しかったけど。

ナナミ ……何でサボテンなんですかね？

ノリエ ……言うことだけは立派な人で、よく「どんな過酷な人生でも勝ち抜いてみ

せる」なんて…だからサボテンが羨ましかったんじゃないかしら、過酷な環境でも生き抜くでしょう？

ママミコ なるほど。

ノリエ つていうのは私の想像だけど。サトシは「人間的にトゲトゲしてるからだ」なんて口の悪いことを言ってるわ。

ナナミ で、本人は竜だと思ってる。

ノリエ ええ、もう何が何だか（笑う）

ママミコ 本当のことは言わないんですか、ご主人には。

ノリエ 前に一度言ってみただけど、カンカンに怒らせてしまったから…どうして？

ナナミ 「この俺がそんな情けないものになってるはずがない」みたいな？

ノリエ そうそう、「俺が知らないと思ってる馬鹿にしてるのか」って。

ママミコ えー、それって、ノリエさんのことを信じてないってことじゃないですか。

ノリエ まあ、ねえ。

ママミコ ムカつきませんか？

ノリエ 今さら…ムカつくだけ、時間ももつたないでしょ。

ナナミ わかるわかるー。

ナナミ 「はいはい」って思って流さないと、男なんて。こっちは忙しいんだから。そうそう、晩ご飯作らなきゃいけないものね。

ノリエ ですよねー。

ママミコ うわ、何で二人ともそんなに心が広いんですか？

ナナミ そう？

ママミコ なんか落ち込んだじゃうなあ…

ナナミ えー、なんで？

ママミコ 私、チクチク文句言ってるもん、キミくんに。何でよりによってこんな時期にそんなことになってるの、って。

ナナミ それは本人に言っても…

ママミコ わかってる。だからはつきり言えないの、でも何で一番助けてほしい時に、助けてって言えないようなことになっちゃうのかなあ…

ナナミ ……

ママミコ たぶんそれは向こうも感じてて、そういうお互いの不満とか不安を出産に立ち会うことで全部解決しようとしている気がする…それでチャラにしようとしてるって言うか…私もたぶんどこかでそう思ってる…立ち会いが理解し合ってる夫婦の証みたいなの…でもそれは何だかちよつと違うんじゃないかっていう気がして来たんだよね…

ナナミ 産んだ後からが本番だもんね。

ママミコ うん…だから今までは出産とか、せいぜいその直後の育児とか、そういう

ことばかり考えて来たけど、その先どうすんだよ、って…最悪の場合、一生、人魚のキミくんと私と子供とで家族をやっていかなくちゃいけないわけだから…それをリアルに考えると眩暈がしちゃうから考えないようにしてるんだけど…でも考えなくちゃいけないって…そうするとチクチク文句言っちゃう、心の底では「なに呑気にバスタブ入って、海で泳いで気楽に過ごしてんのよ」とか、ひどいことを考えたり…ナナミさんや古賀さんみたいに「はいはい」って大きく構えることなんてできないんです…

ナナミ
ノリエ

…
…
それをそのまま言ってみたら？ さっき「助けてって言えないようなことになってる」って言ってたけど、言えはいじやない、助けて、って。さっきも言ったけどさ、成澤さんは話ができるんだから話せばいいんだよ。

マミコ
ナナミ

…
…
…だって、そのままだと今度はマミコさんがバスルームに籠もることになっちゃうんじゃない？

マミコ
ナナミ

…ええ？

マミコ

…
…
大丈夫よ、マミコさんが人魚になるなら、とっくに私のほうが先になってるから。

ナナミ
ノリエ

あれ、さっきは鳥になりたいって言ってましたよ。

ああ、そうね、鳥だったわね。

ナナミ

鳥になる人もバスルームに閉じ籠るんでしょうか？

ノリエ

でも、それじゃペンギンになりそうよね。

ナナミ

飛べないです。

ノリエ

本当。

ナナミ

しかも下半身だけだったら悲しすぎ。

ノリエ

可愛くていいじゃない？

ナナミ

えー、どうかなあ？

三人

…
…

ノリエ

…文句言ってみようかしら。

マミコ

え？

ノリエ

そんなへんてこな生き物にならないように、今のうちに文句言っておこうかしら。

ナナミ

えー？

ノリエ

今まで黙ってて申し訳ないですけど、お父さん、竜になってるわけではな

いんです…

マミコ・ナナミ

…
…

ノリエ

(二人のほうを向いて) やっぱ無理だわ。

マミコ・ナナミ

えー？

ノリエ 何だか可哀想なんだもの。…ヒヨロヒヨロだし、色も冴えないし、花も咲かないし…

ナナミ 折れてるし。

ノリエ ねえ？

ナナミ 文句の言い甲斐もないですか。

マミコ うーん…

マミコ、不意にホワイトボードからペンを取って来る。

マミコ …じゃ、私が顔を書きますから。

ノリエ ええっ？

ナナミ 顔？

マミコ ご主人の顔…見たことないですけど…書いてみます。そうしたら気分が出るんじゃないですか？

ナナミ えーっ…

マミコ 水性ですから、これ。

ノリエ …軍手。

マミコ え？

ノリエ 軍手しないと、トゲが刺さるから。

ナナミ 乗り気じゃないですか。

ノリエ、マミコに軍手を渡すと、マミコ、サボテンに顔を描き出す。
ナナミもそれを覗きに来る。

マミコ ええと、じゃ、とりあえず眉毛ですかね…

ノリエ そうね…

だが、ペンの調子が悪いのか、なかなかうまく描けない。
そこへ日和、入って来る。

日和 何してるんですか？

ノリエ ええと…

マミコ 家族のふれ合いです。

日和 は？

ナナミ　そうそう。
マミコ　ペン持っていないですか？

日和、白衣を探り、ポケットからペンを取り出す。

日和　こんなのしかないですけど…
マミコ　ちよっとお借りします。(ノリエに)　じゃ、さっきの続きを。
日和　何してるんですか？
ナナミ　見てればわかりますよー
ノリエ　眉毛ね…けっこう太いの。
マミコ　……

マミコ、サボテンに太い眉毛を描く。

日和　ちよっと…
ナナミ　いいからいいから。
ノリエ　目は大きくもなく小さくもなく…そうそう、そんな感じ…鼻は四角くて…口は横に広がってて…そうそう…

などと、ノリエの説明に合わせて、古賀の似顔絵を描き上げる。
それを見て、

ノリエ　…雰囲気は出てるかも。
マミコ　本当？
ナナミ　本当、こんな感じですよね…(日和に)　ねえ？
日和　いやあ、まずいでしょ、こんなことしちゃ…
マミコ　よし…(ノリエに)　じゃ、どうぞ。
ノリエ　お父さん…
マミコ　あ！
ナナミ　なに？
マミコ　これ…

マミコ、ペンを差し出してノリエに見せる。

ノリエ

…お父さん、ごめんなさい、それ、油性だったわ…

病室の明かりが落ちる。

同時に屋上の明かりがつく。

車椅子のキミハルと本間が並んで外を眺めている。

キミハルは缶コーヒーを飲み、本間は喫煙中。

本間　まだ時間、大丈夫？

キミハル　（腕時計を見て）一時四十五分。

本間　もうちよつとしたら戻るか。

キミハル　だな。

本間　ああ、こんないい天気だと治療する気になんないよなあ。

キミハル　何のためにここにいるんだよ。

本間　治療さぼって遊びに行きてえなあ。

キミハル　どこに？

本間　女の子誘って…海とか。

キミハル　同じだろ、海なら。

本間　いやでも違うだろ、その海とあの海は違うんだよ。

キミハル　何だそれ…

キミハル、缶コーヒーを飲み干す。

本間　それ空いた？

キミハル　ああ。

本間　本当、いい天気だよなあ。

キミハルが空き缶を渡すと、本間、それに煙草をねじ込む。

本間　ああ、あれ、思い出したわ。

キミハル　ん？

本間 潜水しながら水面を見上げてた、ってやつ。やっぱ、お前だった。え？

キミハル でも海じゃなかった。

本間 学校のプールか？

キミハル いや、プールでもない。水の底じゃなかったよ。屋上だった。

本間 屋上？

お前さ、陸上部入ってすぐにもう嫌になってたじゃん、練習がキツイとか、他のやつレベルが高いとか、何かそういうことで・・・

キミハル (思い出して)・・・ああ。

本間 それで俺が誘ったんだよ、うちのほうに来てみる、気楽だぜって。

キミハル うちのほうって・・・

本間 屋上部。

キミハル 俺が？

本間 何だ、その嫌そうな顔は。

キミハル 覚えてない。

本間 うん、俺も忘れてた。

キミハル で、俺も屋上でボーツとしたのか？

本間 他にすることないからな。で、ちょうど今日みたいないい天気だし、空が

青くて雲が白くて、こう見上げてたら何だか自分が海の底にいるような気分になって来たんだな、俺。ほら、ちょうど感受性の強い頃だからさ。で、

そう言ってみたんだよ、お前に・・・

何て？

海の底にいるみたいだよなあって・・・空が水面みたいに見えるよなあって。

・・・

感受性の強い頃ね。

で、俺はその恐ろしいセリフに何か答えたの？

うん。

何て？

・・・

え、何？俺も何か恐ろしいことを言ったのか？

・・・「やっぱり俺、今から部活行ってくるわ」って。

(頷いて)だよな。

悲しかった・・・

あ、そう・・・ごめんね、今さらだけど。

でも、お前、去りに際に言ったんだよな。

え？

「学校が火事にならないかなあって本当に思ったこと、ある？」って。

え、そんな根暗なことを？

真顔で。

・・・

本間 俺が「思わなかった日のほうが少ない」って答えたら、お前は「俺はないんだよね」って。

キミハル (頷いて) だよな。

本間 で……

キミハル で？

本間 「俺はむしろ風呂に入って次の日のこととか考えると、ああこのまま自分が人魚になっちまえばいいのになあって思う」

キミハル ……

本間 「人魚になれば明日行かなくて済むのになあって、そう思うんだ」って言ったんだよ、お前、真顔のままです。

キミハル ……

本間 学校を燃やすより、自分を人魚にするやつだったんだな、お前は。あの頃から。

キミハル ……覚えてない。

本間 うん、その後のお前の活躍、すごかったもん。

キミハル ああ。

本間 謙遜しろよ。インターハイだの何だので、しょっちゅう全校集会で表彰されててさ……見事に壁を乗り越えたわけだ、俺を踏み台にして。

キミハル ……

本間 何か突っ込めよ、本当に踏み台にされたみたいじゃん、俺。

キミハル ……同じなんだな。

本間 え？

キミハル 俺……

本間 ……俺たちが同じってこと？

キミハル 違う。

本間 あ、そう……お前さ、もしかして俺のこと嫌い？

キミハル さて、戻るか。

本間 え、それで終わり？ 普通、「で、本間はこういうことあったよな」って、俺の話にならない？

キミハル ならない。

本間 なるうよ、俺の話題に。

キミハル 行くぞ。

本間 じゃ勝手に俺が俺の話題を話すことにします……ええと……ちくしょう、高校時代は何もかも思い出したくないことばかりだ！

キミハル、去ろうとする。

本間 待って！ ええと……じゃあ、最近の俺の話題。じつは俺が人魚になったの

は、バスルームに籠もってたわけではないのです。俺が籠もっていたのはどこかと言うと……

キミハル、一瞬止まって振り返る。が、そのまま去ろうとする。

本間 興味持てよ！俺の告白に！

サトシ、出て来る。

サトシ あ、日和さんが探してましたよ。

キミハル やっぱり？

本間 俺は今日はさぼるから。

キミハル 何言ってるんだよ。

本間 明日から沖縄、行くことにしたから。

キミハル ……

キミハル、そのまま無言で去る。

本間 だから興味持てよ！

サトシ え、本当なんですか、沖縄行くって…

本間 サトシくん、ありがとう！

サトシ 何がですか？

本間 俺の話題に食いついてくれて。

サトシ なんで涙目なんですか？

本間 俺さ、実はバスルームに籠もってたわけじゃないんだよね。

サトシ えっ…

本間 興味持った？

サトシ あ、はい…でも、かなり唐突っすね。

本間 どこに籠もってたと思う？（答える隙を与えず）水槽。

サトシ ……

本間 俺ん家、動物病院やってるからさ、研究用とか趣味とかでいろんな動物とか魚とか飼ってるのね。それでピラルクーって魚、知ってる？

サトシ あ、はい…あの大きいやつですよ？アマゾンあたりの…

本間 そうそう、そいつのでっかい水槽があつてね、そこに入ってたのよ、俺…

サトシ

へえ。

本間

で、なんでそんなところに籠もったのかと言うと……

サトシ

はい。

本間

俺、こっち側じゃないかなあって思っちゃったんだよね。水槽のこっち側、餌もらってユラユラ泳いでるやつらと同じ側なんじゃないかなあって。

サトシ

え、どういうことですか？

本間

俺も親から餌もらって、ユラユラしてるだけだったから。

サトシ

……

本間

で、試しに入ってみたのよ、ピラルクーは迷惑そうな顔してたけど。そして、気持ち良くて気持ち良くて！「やつぱこっちだよ、こっち側だよ、俺！」って大満足しちゃって、生まれて初めてっていうくらいくつろいちゃって、癒されちゃって、のびのびしちゃって、それで……出られなくなっ

サトシ

……

本間

俺の告白、終わり。あー、すっきりした、俺の話題盛り上がり！ありがとう、サトシくん！

サトシ

いえ、あの、俺なんか聞いてちゃって、良かったんですかね？

本間

……もしかしてひいてる？

サトシ

そんなことないっすけど……

本間

サトシくんは優しいよねえ。

サトシ

そんなことないっすけど……

本間、サトシに煙草を差し出す。サトシ、遠慮がちに一本もらう。

本間

吸えるんだ。

サトシ

二十一ですよ、俺。

本間

いや、歳じゃなくて……

サトシ

ああ……まあ……父は怒りますね。

本間

怒られるうちが華だよ。

サトシ

……

本間

俺なんてもう怒ってももらえないし。

サトシ

でも心配すると思いますよ。

本間

お互い、治らなくても困るけど治っても困る……治ったって、その先があるからねえ……

サトシ

……

本間

サトシくんは何学部？

サトシ

教育学部です。

本間

先生になるんだ？

サトシ　そこしか受からなかったからそこに入っただけで……でも最近ちよと教えるのも面白いなあって思えて来て。

本間　あ、家庭教師やってんだっけ？

サトシ　はい、その中学生が……ほんと覚え悪いやつなんですけど……二週間かかってやつと単語の綴りを覚えてくれて。

本間　ああ、何か前に聞いたよね。何だっけ、すごく基本的な単語……

サトシ　あ、マウンテンはまだ書けないです。

本間　え、じゃ何？

サトシ　「ハートブレイク」。

本間　ふられちゃったんだ……

サトシ　はい。あまりに落ち込んでから、「今のお前を表す英語はこれだよ」って教えたら、スーッと頭に入ったみたいで。自分に関わることだと熱心に覚えるんですよ、人間って。そういうのって、こっちの教え方次第なんだなあって、ちよっと面白くなって……でもまだ将来のことははっきり決めてないです。

本間　うん、まだ若いからいいんじゃない？

サトシ　本間さん。

本間　ん？

サトシ　親の仕事を継ぐのって、やっぱりプレッシャーすごいですか？

本間　幼稚園？

サトシ　いや、俺じゃなくて……うちの父親、婿なんですよ。幼稚園を始めたのは母の両親で。そういうのってやっぱり、いろいろ責任感してるのかなあって……

本間　でも、責任感してるかもしれないお父さんに、キミが責任感することはな
いと思うよ。

サトシ　え？

本間　でないと、今度はキミがなつちやうよ……何だろ……芝生とかに。

サトシ　俺、芝生つぼいっすか……

本間　なんかこう、癒される感じ？

サトシ　芝生にはなりたくねえなあー

本間　俺ももうピラルクーには間借りしたくねえなあー

二人、何となく空を見上げて、

本間　……何だか、海の底から水面を見上げてるみたいじゃない？

サトシ　……かっこいいっすね……本間さん……

本間　本当にありがとう、サトシくん！

サトシ　……？

暗
転

◇ 7・産婦人科診察室 ◇

キミハルの入院から二週間後。

診察室で机に向かっていている青山と、椅子に座ったマミコ、車椅子のキミハル。

キミハル

え、入院？

青山

念のために、ですけどね。だいぶ頻繁にお腹が張るようですし、不眠と食欲不振……ま、この時期は大きくなった赤ちゃんが胃袋を押し上げるので、食欲がなくなる方も多いんですけどね。

……(そうなの？とマミコを見る)

……(キミハルから目をそらして頷く)

マミコ

ご主人が入院されてもう……

青山

二週間、です。

キミハル

奥さんも疲れが出る頃だと思いますので。

マミコ

……

キミハル

子供は大丈夫ですか？

超音波で見た限りではとくに問題はないと思いますが。奥さんも血圧や血液検査では異常ないですから。ただ、胎児にはお母さんの精神状態がすぐに影響しますしね……妊婦さんにストレスは厳禁です。

キミハル

……

青山

まあ同じ病院内ですし、お互いの様子もすぐわかるので、それほど心配もないかと思いますが……

キミハル

わかりました、お願いします。

青山

よろしいですか？

マミコ

はい……

青山

では準備もあるでしょうし、今日の夕方からです。

マミコ

はい。

青山

それから、立ち会いの件ですが……

キミハル

あ、はい……

マミコ

……

青山

こちらとしても、一応、ご希望に添える形で何とかしたいと、話し合いを重ねてはいるんですが……

キミハル

はい。

マミコ

すみません。

青山

本当ですよ、重ねているんです、重ねて来たんです、ずっと、重ねて重ねて重ねて……でももう、僕の力ではどうにもならない！

青山、机の向こう側から、キャスター椅子に座ったまま、滑るようにこちらへ出て来る。

白衣の下から、魚の下半身が覗いている。しばし、無言で見つめあう三人。

青山

…そういうわけでした。次回から担当が変わります。こんな大事な時期に申し訳ありません。

青山、静かに泣き始める。

呆然と見つめるキミハルとマミコ。

暗転

◇ 8・バスルーム⑤ ◇

産科検診の直後。午後の早い時間。
 バスタブに入っているキミハル。
 その隣、バスタブ4に青山が浸かっている。

青山 ……悪くないですねえ。

キミハル そうですか。

青山 久しぶりだなあ、こんなゆっくり風呂に入るの…

キミハル ……すみません。うちが立ち会いのことで無理を言ったから、先生もこんなことに…

青山 いやいやいや、そんなことないです。もともと、限界が来ていたんです、あまりに忙しくてね。成澤さんのせいじゃないですよ、気にしないでください、ね！

キミハル ……

青山 うん、悪くないなあ。しかしなんです、人魚にならないとゆっくり風呂にも入れないなんてねえ。

キミハル ええ…

マミコ、入ってくる。

青山 入院の手続きは済みましたか？

マミコ はい、個室が空いてました。…先生、すみません…本当に…

青山 いやいや、今その話をしていたところです。成澤さんのせいじゃないですから。妊婦さんはそんなこと気にしては駄目です。ストレスは厳禁ですよ。……

マミコ

青山のスタッフ用PHSが鳴る。

青山、マミコに「カーテンを閉めてくれ」とジェスチャーで頼む。

マミコ、カーテンを閉めてやる。

青山

はい、青山。ええ、今もう入院手続きを済ませて…えっ、人手が足りないって…でも僕もう入院しちゃったし…田中君は？手術？緊急帝王切開？そうか…困ったなあ…だいたい、分娩室に入れないんだよ、僕…何でって…人魚なんだよ！…いや僕は構わないけど、病院側が許さないでしょ

う…許さなかったんだよ…だから入れないんだよ、分娩室に…申し訳ない…

青山、電話を切り、バスタブに沈んで目を閉じる。

マミコ、椅子に腰かけて、

マミコ …あのね、うちのお母さんに来てもらいたいんだけど。

キミハル え？

マミコ お互い入院じゃ何にもできないでしょ、看病も、家のことも…

キミハル ああ…

マミコ だから、お母さん、呼ぶね。

キミハル うん…

マミコ ここには来させないようにするから…過労ってことになってるし。

キミハル ……

マミコ でももう本当のこと言ってもいいんじゃない？

キミハル ん…

マミコ キミくんのお父さんとお母さんにも。

キミハル ん…

マミコ だって私たち、もう無理だよ。

キミハル ……

マミコ 自分のことだってままならないじゃない。

キミハル わかってる。

マミコ あー、足の裏、痛い。

マミコ、靴を脱いで、足をブラブラさせる。

マミコ 自分で自分が重たい。

キミハル 荷物、取りに行けるか？

マミコ 行けなかったらどうなの？ キミくんが行ってくれるの？

キミハル ……

マミコ キミくんが入院する時は私が荷物持って来てあげたのに、私の時は私がやんなきゃいけないんだね。

キミハル ……

マミコ 妊婦なのに。

キミハル …じゃ、俺がやるよ。

マミコ どうやって？

キミハル どうやってでも…(バスタブから出ようとする)

マミコ やめてよ、いいよ。

キミハル 荷物持ってくればいいんだろ。

マミコ 何その言い方！ だいたい私が入院するの、心配してんの？

キミハル してるに決まってるだろう！

マミコ 心配してる相手にそういう口は聞かないと思うんだけど！

キミハル お前だって、俺のことを心配してるのかよ？

マミコ はあ？

キミハル 俺だって入院してるんだよ！ 好きでこんなところにいるわけじゃないんだよ！

マミコ だから何でそういう言い方するの！

キミハル 普通だよ！

マミコ 普通じゃないよ！

青山 (カーテン越しに) あの、成澤さん…

日和、入って来る。

日和 成澤さん。

キミハル あ、はい。

日和 本間さんと小野瀬さん、海に出てますけど、今から合流されますか？

キミハル ええと…(マミコを見る)

日和 あ、お話があるなら結構ですよ、また午後にもありますから。

キミハル すみません。

日和 いえ…それから僕、忘れていましたけど、診断書の件、どうしますか？

キミハル え？

日和 診断書。三段階のうち、どれにしますか？

キミハル ああ…

日和 会社に提出されなくていいんですか？

キミハル …そうですね…もう少し考えていいですか…

日和 もちろん。退院してからでも大丈夫ですから。

キミハル すみません。

日和、青山のカーテンを覗いて、

日和 青山先生、どうですか。

青山 ああ…悪くないね。

日和 良かった。

青山 日和君は大丈夫？

日和 はい？

青山 この病棟は看護士が長続きしないので有名だから。

日和 そうですね、ちよっと前まではあと二人いたんですけど、二人とも体調崩しちゃって。

青山 君も無理してるんじゃないの？

日和 まあ・・・仕事ですから。

青山 偉いねえ。(キミハルに) この日和くんの逞しさは何なんでしょうね？

キミハル そのうちわかりますよ・・・

日和 はい？

キミハル いやいや。

立花、入って来る。ラフな私服姿。

ツカサが古賀から借りた箱を手に持っている。

立花

どうも。

キミハル

立花さん・・・

日和

ああ、大変でしたね。

立花

お手数おかけしました。

日和

いえ、また何かあれば言ってください。

立花

すみません。

日和、部屋から出て行く。

立花

今、少しいいですか。

マミコ

もちろん、どうぞ・・・(椅子から立とうとする)

立花

いえ、どうぞそのままです。すぐ帰りますから・・・(キミハルに) これを返すに来た。

立花、バスタブ1へ近づくと、不思議なものを見るように、サボテンをチラチラ盗み見しつつ、箱をその近くへそっと置く。

立花

箱のお礼を言っておいてもらえないかな。

わかりました。

立花 スーツケースはそのまま差し上げるって、ツカサも言ってたから。

キミハル いかがですか、奥さんは？

立花 病院を移ることになった。

キミハル え？

立花 向こうの両親が来て、都内の病院に移る手続きをしていったよ。俺のそばに置いておくのは不安になったらしい。

キミハル ……

立花 ここ二週間ばかり二人から毎日のようにずっと文句言われっぱなしで…耳の中がガンガンしてるよ。おかげで「俺も光ります」なんて言い出せないままだ。

キミハル ……

立花 ま、両親のショックもわかるしな。

キミハル で、お二人とも体調は…

立花 お前は？

キミハル あまり変わらず、です。

立花 (頷いて) お前、有休つかって休んでるんだってな。

キミハル ……

立花 昨日、顔を出したんだが、総務に聞いて驚いたよ。

キミハル 顔を出した？

立花 退職願いを出して来た。

キミハル ……

立花 症状が落ち着いたら田舎へ帰ることにした。しばらくのんびりするよ。

キミハル え、じゃ奥さんは…

立花 別居。別居で済むかはわからないが…

キミハル そんな…

立花 ま、こっちにいてもお互い自分のことで手一杯だしな。相手のことまで見る余裕もないし…それで必要のない争いをするくらいなら、いつそ離れてそれぞれ自分のことだけするほうがいいのかもしれない。

キミハル ……

立花 そばにいと、期待してしまうからな。何かしてくれるんじゃないか、って。

キミハル ……

キミハル ……

立花 ま、そういうわけだ。

マミコ ……それで本当がいいんですか？

立花 え？

マミコ 何かできるかどうかじゃなくて、そばにいてあげたい、って思わないんですか？

立花 いくら思ったって、伝わらなければ意味がないでしょう。

マミコ

伝わりますよ。

立花

伝えられていたら、俺はこんなことになっていないです。逃げると言われればそれまでですが……自分でもどうしようもない……口で言えないから代わりにケツが光ってくれてるんだと思う。でも相手がヤドカリじゃそれも通じなかった。

マミコ

……

立花

蛍のオスはただ光ってメスが来るのを待つだろ？ だけど、ヤドカリのオスっていうのは、片方のハサミでメスを掴んだまま生活するらしいんだよ、そのメスが交尾できるようになるまで。同じオスでもものすごい差だよな……

キミハル

……

マミコ

お二人とも人間です。うちの主人も。

立花

(笑って) そうでした。また顔を出すよ。それじゃ……

立花、出て行く。

キミハルとマミコ、しばし無言。

マミコ

なんか……淡白な人だね……奥さんはあんなに悩んでたのに……

キミハル

立花さんだって悩んでるよ。

マミコ

会社……キミくんはどうするの？

キミハル

どうする、って……

マミコ

診断書出して、ちゃんとお休みもらえばいいじゃない。恥ずかしいことなんてないよ。

キミハル

恥ずかしいなんて思っていない。

マミコ

じゃどうして？ お義父さんとお義母さんにも黙ったままだし。

キミハル

……

マミコ

私もキミくんも、立花さんとかみたいになっちゃうのかなあ……

キミハル

何言ってるんだよ！

マミコ

……

キミハル

何言ってるんだよ……

マミコ

(泣き出す) もうやだよ……

キミハル

……

妊婦なのに、なんでこんな泣いたり、眠れなかったりしなきゃならないの！ 青山先生だって言ってたでしょ、妊婦にストレスは厳禁だって！ ねえ、先生！

青山

(不意をつかれて慌てつつ) はい、そうです、厳禁です！

マミコ

ほら！

キミハル

妊婦妊婦って威張るなよ……俺なんてなあ、人魚だよ、人魚！ 人魚人魚人

魚！

マミコ　そっちこそ威張らないでよ、人魚と妊婦とどっちが偉いと思ってるの！

キミハル　どっち、って……どっちですか、先生！

青山　え？え？……ぐうー（寝たフリをする）

マミコ　だいたい人魚としては健康なんですよ！私なんてお産で死ぬかもしれないな

い！命がけなんだよ！

俺だって、離岸流とか泳いで、命がけなんだよ！

お産を離岸流と一緒にしないでよ！

だいたい、妊娠だってお産だつて、病気じゃないだろう！

……

……

キミくんつてそういうこと言う人だったんだ！

……

そういうこと言う人だったんだ！

……

そういうこと言う人だったんだ！

二回も言うな！

もう帰る！

マミコ！

帰る！

マミコ！

帰る！

マミコ……

マミコ、「帰る」と言いつつ、脱いだ靴を履こうとするが、

お腹が邪魔でしゃがめないため、なかなか履くことができない。

マミコ　……履かせてよ！

キミハル　……

キミハル、履かせようとするが、バスタブの中から手を伸ばしても、
体勢に無理があつて届かない。

キミハル　ちよつと待て、外に出るから……

マミコ　もういいよ！もういい！出て来ないで！

キミハル　……

もう、そこから出て来ないでいいよ！

マミコ

……

マミコ

……

キミハル

……あのまま、バスルームから出なければ良かったかな……

マミコ

そういう意味じゃないよ……

キミハル

いつそ全部、魚になっちゃまえば……

マミコ

どうしてそんなこと言うの……

キミハル

じゃあ、どう言えばいいんだよ！靴を履かせることもできない夫なんて、

魚と一緒にだろう！

マミコ

……

キミハル

（お腹を押さえて）痛っ。

マミコ

どうした？

キミハル

蹴られた。あ、また……痛っ。

マミコ

大丈夫か？

キミハル

……お構いなしだよね……この子……生まれる気満々だよ……

マミコ

……

マミコ、お腹を撫でる。

マミコ

……結婚する前はさ、夫が人魚になっても家族としてやっていく覚悟なん

キミハル

て……そんな覚悟、しなきゃいけないなんて思いもしなかった。

マミコ

……

キミハル

でも……立ち止まってるわけにいかないよね……この子は先に進もうとして

マミコ

るから……なんかすごい勢いだよ……私の中にいるのに私を引っ張って行こ

キミハル

うとしてる……離岸流ってこんな感じ？

マミコ

……

しばし二人、沈黙。

キミハル

沖繩、行くよ。

マミコ

……え？

キミハル

ここにいても何もできないし……立会いもできないし、たぶん育児なんて手

マミコ

伝えないし、それどころか自分のことも何もできないし、だから沖繩行っ

マミコ

てみるよ……

マミコ

……

キミハル

もし全部、魚になっちゃったら、ごめん。

マミコ
キミハル

やめてよ……
立花さんが言った通り、近くにいると期待してしまうからさ、何かしてくれるんじゃないか、って……自分も何かしてあげられるんじゃないか、って。でも今の俺たち、自分のこともままたらないから……

マミコ
キミハル

……

助けてよ。

助けてたいよ。

私も助けてたいよ。

助けてくれよ……

マミコ
キミハル

……
人魚が妊婦を助けて、妊婦が人魚を助けるには、どうしたらいいんだろうなあ？

……
そんなことも考えなきゃいけないのかあ、人生って……

マミコ
キミハル

マミコ、何とか自力で靴を履き、立ち上がる。

マミコ

行かなくちや……

キミハル

マミコ。

荷物取って来たら、そのまま産婦人科へ行くね……しばらく会えないかもしれない。

キミハル

うん……

マミコ

……

キミハルとマミコ、とても苦しそうな不自然な形で抱き締め合う。
やがてマミコ、ゆっくりと入口へ向かう。

青山

(カーテンの隙間から) 気をつけて。

マミコ、青山に会釈し、そのまま出て行く。
キミハル、目を閉じてバスタブに深く浸かる。

青山

……どうして、こんなことになるんでしょう……何も悪いことはしていない、

ただ真面目にやって来ただけなのに、その真面目さゆえにこんなことになるなんて……どこかにはるはずですよ……もっと楽に生きていける方法が……もっと生きていきやすい世の中が……いや、ないからこうなっているのか……でも何かあるはずなんです、いい方法が……

……

本間が入口から入って来る。海から戻って来たところ。

本間　おう、今そこで奥さんとすれ違ったけど……

キミハル　ああ……

本間　元気なかったけど、どうかしたの？

キミハル　……産婦人科のほうに入院することになった。

本間　え、産まれるの？

キミハル　いや、ちょっと調子悪いらしくて。

本間　えっ。

キミハル　いや、子供じゃなくて、本人が不眠症とか食欲不振とか。

本間　ああ、そう……(青山に気づいて) あ、どうも。

青山　今日からお世話になります、青山です。

本間　本間で、よろしく……でも、もう明日ここを出るんですけど。

キミハル　えっ？

青山　退院ですか？

本間　いえ、沖縄へ……明日の朝イチで行くことにしたわ。

キミハル　本気だったのか。

本間　当たり前だよ。

キミハル　金は？

本間　貯金。

キミハル　嘘つけ。

本間　本当、ただし治療費だけ。旅費がどうしても工面できない。

キミハル　……

本間　貸して。

キミハル　はあ？

本間　なーんて、な。要らないんだよ、旅費なんて……泳いでいく。

キミハル　何て言った？

本間　泳いでいく……だって、人魚だし。

キミハル　……

本間　人魚が海を渡るのに、わざわざ高い金を出して、空を飛んでいくことなん

キミハル　かないんだよ。

本間　馬鹿か、お前。ここから沖縄までどれだけあると思ってるんだ？

本間 すげー遠い。でも俺の泳ぎも、すげー速い。
キミハル 時速は？

本間 そんなの計ったことないけど。でもマグロは時速百五十キロで泳げるらしいんだよ。だから俺もそのぐらいできると思う。離岸流も余裕だったし。離岸流ってのは、せいぜい時速七キロくらいだ。

本間 ……ん？

キミハル 馬鹿なことはやめておけ…

本間 ま、とにかく決めたから。

キミハル だから…

本間 頭で考えんなよ、俺の尻尾は「行ける！」って確信してるんだよ。

キミハル 先生は何て言ってるんだ？

本間 言ってるない。

キミハル は？

本間 かつこいいだろ？ 沖縄のスタッフが空港でしびれを切らしている頃、俺は

涼しい顔をして砂浜から登場！

飛行機と同じ日に着けるはずないだろ！

飛行機って時速どのくらいだよ？

マツハ、って言葉、知ってるか？

おお、音速か！ 音速の壁、超えちゃうか、俺！

…（呆れて言葉もない）

本間 あ、こんなことしてる場合じゃないんだ、荷作り、荷造り。さすがに荷物抱えて泳ぐのはキツイから、全部宅配便で送ってもらおうと思って。お前、ダンボール持ってない？

キミハル ない。

本間 しょうがねえな、売店のおばちゃんにでも聞いてくるか…

キミハル ……本間。

本間 あ？

キミハル なんで、お前いきなり、そんなことになってんの？

本間 いきなりじゃない、ずっと考えてた、離岸流泳ぎながら。

キミハル ……

本間、
ラックから荷物を出し、まとめ始める。

本間 水槽に潜り込んで人魚になってき、人魚になってもここでまたバスタブに潜り込んでるだけでさ、海に出ても必死に離岸流を掻き分けて海岸へ向かって泳いでさ…海岸へ…元の体に戻るほうへ向かって…でも何か変じゃないかなあっていつも思っていた。俺が泳いで行くべき方向は、沖なんじゃないの、って。だって俺、溺れないし。溺れないのに、何で海岸に

向かって必死に泳いで行かなきゃいけないのかなあ、ってな。
治すためにここにいるんだ。

本間 キミハル
頭ではわかっているよ。だけど波に揉まれている時よりも、砂浜に着いた時のほうがむしろ息が苦しくなるんだ。エラ呼吸でもないのにな。やばい、って思った。このままじゃ俺、また閉じ籠もっちゃうかもしれない、受付の
でっかい水槽あたりに……

キミハル
本間 ……
かと言つて、元に戻りたくないわけでもない。俺だって結婚もしたいし、将来は子供に囲まれて幸せに暮らしたい。だから一生、このままでいるのはイヤだ……っていう、まあ、そのへんの折衷案かな、今回ののは。

キミハル
本間 ……
ダンボール、何個要ると思う？二個くらい？

キミハル ……(黙って本間を見ている)

本間 いや、そんな真剣に悩まなくても……

キミハル 俺だって、そう思ってたよ。

本間 え、二個ってこと？

キミハル 海へ出る度にいつも思ってたよ。何で海岸へ向かって泳がなきゃいけないんだろう、って。

本間 ……
流された振りして、そのまま戻らないことだつてできるかもしれない……でもそっちにあるんだよ、いろんなものが全部……だからお前みたいに簡単に振り切つて泳いで行くなんてできないんだよ……

本間 いいんじゃないの、それで。

キミハル ……

本間 だからお前は飛行機に乗って海を渡ればいいんじゃないやね？着くところは同じなんだし。

キミハル ……

本間 空飛ぶ人魚か、それもかっこいいな。ああ、ほら、俺の言った通りだろ、空の水面だよ、空の水面を空飛ぶ人魚が泳いで行くんだよ……って、ああ、なんで、サトシくん、今ここにいないんだ！いや、置き手紙に書いていこう……って、そんなことしてる場合じゃないよ、ダンボールだよ、ダンボール……

キミハル ……

本間 二個でいいよな？このへんの全部送りたいんだけど。

キミハル ……

本間 どうした？

キミハル いや……二個で充分だろ。

本間 だよな。

キミハル、不意に涙が溢れて来る。
本間に悟られないように体を伸ばしてラックからゴーグルを取り、顔に掛ける。

本間 何すんの、お前？

キミハル ……イメージトレーニング。さつき海に行けなかったから。

本間 真面目だねえ。

本間、部屋から出て行く。

ひとりになったキミハル、バスタブに深々と沈み込む。

しばらく考え込んでいた青山、不意に息せき切ったように、

青山 わかりました！ わかりましたよ、成澤さん。 本間さんでしたっけ？ あの

方のお話を聞いていて、私、思いつきました！

キミハル えっ？

青山 治す必要なんてないんです、このままでいいんです。人魚を病気だと思っ
たら、否定しようとするから辛いのです。本人も家族も、周りが全部、このま
ま人魚を肯定すればいいのです。だって我々は病気ではない、いたって健康
なのですから……人魚として。

キミハル ……（意味がわからない）

青山 さつき、産婦人科から言われました、「人魚でもいいから助けてくれ」って……
私はね、気が気じゃないんですよ、成澤さん。私がこうしてバスタブに浸かっ
ているうちに、同僚の誰かが、助産師の誰かが、その家族の誰かが、今この
瞬間にも人魚になろうとしているかもしれない……そう思うと気が気じゃな
いんです。

キミハル ……

青山 だから、私やってみます。

キミハル え、何を？

青山 ……成澤さん、立ち会えますよ。

青山、ナースコールを押す。

キミハル はい？

青山 水中出産です！ 手配してみます。これなら私もあなたも堂々と、伸び伸び
と、この姿のまま立ち会おう……立ち泳ぎ会うことができます。病院側が何
て言うかわかりませんが……でも戦ってみせます。これは私と成澤さん夫婦

だけの問題じゃない。これから現れるであろう、多くの人魚たちの問題でもあります。それから、人魚になりかけているたくさんの人たちの……

キミハル

……

日和、入って来る。

日和 どうしました？

青山 介助してください。産婦人科へ行つて来ます。

日和 ええっ。

日和、青山が車椅子へ移るのを介助しながら、

日和 急用ですか？

青山 ええ、ちよつとね。

日和 できたら仕事のこと忘れて、ゆっくりして頂きたいんですけど……

青山 それは、わかっているんですけどね……

日和 だって青山先生、いま駆けつけたって、役に立たないでしょう？

青山 ……(ムツとする)

日和 あ、すみません。

青山 役に立てる方法を思いついたんです。

日和 そうですか。でもそういうのって、意外と有難迷惑だったりするんですよ

ねえ。

……

日和 あ、まずいこと言いました、僕？

青山 日和くん……君って意外と……

日和 はい？

青山 ま、いいや。押してくれ。

日和 え、何ですか、最後まで言つて下さいよ……

日和が青山の車椅子を押して、二人とも退場。
残されるキミハル。

波の音が大きく聞こえる。

やがて窓から風が吹き込み、仕切りカーテンが揺れ始める。

キミハルは動かない。

だんだんと大きくなっていく波の音。

風も強くなつていき、カーテンの揺れが大きくなっていく。同時に照明も薄暗くなつていき、背後の壁一面に光る海面が映し出される。波の音に被さるようにして低く響く、何かが空気を裂いて飛んでいく音。羽ばたく翼のように、全てのカーテンが激しくはためき始める。映像はキミハル自身にも被さつており、まるで彼がバスタブに乗って水面を疾駆していくように、だんだん速さを増して水平線へと進んでいく。やがて、水面を大きく跳ね、空へと。空を駆け上り、雲を突き抜け、やがて一気に暗くなり、宇宙へ。眩い星々の間を疾駆し、一際強い光へ向かつて飛んでいく。やがて巨大な光がキミハルを包み込み、一瞬、全てが白くなる。白い光の中から大きな両手が現れるとキミハルに向かつて伸びて来る。両手はキミハルを包み込み、どこか遠くで産声がか細く響く。だんだんと光と産声は消えていき、不意に闇が落ちるように、

暗転。

◇ 9・バスルーム⑥ ◇

翌日。午前中。

ブラインドが閉められているため、まだ薄暗い。

本間のバスタブ周辺は何も荷物がなく、片付けられている。

青山の姿はなく、キミハルの場所もカーテンが締まっている。

小野瀬だけが、いつも通りバスタブから足先を見せている。

入口から日和が入って来る。

日和

成澤さん、朝食を全然食べてなかったようですけど……ブラインド、開けますね。今日はいいい天気ですよ。

日和、窓へ向かい、ブラインドを開ける。

一気に差し込む陽光。

日和、バスタブ1に、人間に戻った裸の古賀がいることに気がつく。

古賀、顔から胸あたりにかけて、油性マジックで描かれた漫画調の顔が残っている。

しかし本人の表情はかなり険しい。

二人、見つめ合って、しばし沈黙。

やがて日和、深々と頭を下げつつ、

日和

……おはようございます。

古賀

ここにいると言うことは、どうやら私はまた竜になってしまったようですな。

日和

は……

古賀

体中が砂でザラザラだ……そうか、黄河の上空をずっと飛んだせいだな……上流から下流まで一日に何往復もしましたよ、私が飛ぶと河岸の黄砂が

日和

ザーツと竜巻のように巻き上がって……

古賀

シャワー浴びられますか？ とりあえず何か着替えを……

日和

(裸なのに気づき) ああ、そうですね、いつも申し訳ないですな。

古賀

いえ……ではシャワー室の準備をして来ます。たぶん奥様もすぐお見えになると思いますよ、いつもこの時間にはいらっしやいますから……

日和

いつも？

古賀

はい、奥様もサトシ君も毎日のようにいらしてましたよ。

日和

毎日？

古賀

ええ。

古賀

家のほうは放ったらかしで？ サトシも大学があるはずだが。

日和

ええと……とにかく、きつと羽織るものとかないですか？

古賀、ツカサのスーツケースに気づく。

日和

うわあ、ルイ・ヴィトン！高そうっすね！

古賀

……

入口からノリエ、入って来る。

ノリエ

おはようございます。

日和

あ、いらっしやいました……（ノリエに）戻られましたよ、古賀さん。

古賀

ノリエ。

ノリエ、顔の落書きに笑いがこみ上げるが、グッと抑える。

ノリエ

お父さん……

日和

今からシャワーに。その間に先生に連絡しておきますので……

ノリエ

あ、はい、じゃ何か着るものを……

日和、出て行く。

ノリエ、ラックからガウンを出し、古賀に羽織らせる。

ノリエ

気分はどうですか？今、サトシも来ますから……

古賀

……何だ、このカバンは！

ノリエ

え？

古賀

いつ買ったんだ、あれほど無駄遣いすると言っているのに！

ノリエ

これは……

古賀

俺がいない隙に羽を伸ばしていたのか、お前は！

ノリエ

同じ入院患者の方に頂いたんです。

古賀

どの人だ？

ノリエ

この部屋にはいらっしやらないんですけど……

古賀

嘘か！

ノリエ 私がこんなブランドなんてわかるはずないじゃないですか……
 古賀 ちゃんと俺の目を見て言え。
 ノリエ はい……（しかし可笑しくて顔を凝視できない）

古賀、バスタブから出て、周囲をざっと見渡す。
 ふと、窓辺の植木鉢に目を留め、中から吸殻（立花が吸った）をつまみ出す。

古賀 お前か？
 ノリエ まさか……

入口から煙草の箱を手にしたサトシが入って来る。
 片付けられた本間のバスタブを見て、

サトシ ……あー、間に合わなかった……

サトシ、古賀に気づく。

サトシ 父さん……
 古賀 ……
 サトシ （吹き出して、目を逸らす）
 古賀 何だ、その態度は！
 サトシ いや……
 古賀 （吸殻を見せて）お前に煙草なんて百年早い！
 サトシ は？
 ノリエ サトシはもう二十歳超えてますから……
 古賀 親の仕送りで暮らしてるんだから子供と同じだ。
 サトシ それ、俺のじゃない。
 古賀 手に持つてる、それは何だ。
 サトシ これは……あげようと思ったんだよ、その患者さんに。もういないけど……
 古賀 お前も母さんと同じ嘘を……
 サトシ 嘘じゃないって！ え、母さんと同じって何？
 ノリエ お父さん、これを私が勝手に買ったと思ってるの。
 サトシ は？ これ、もらったんだよ。幼稚園の人たちが作ってくれた箱を気に入った人がいて、お礼にっ、こっちをくれたんだよ。

古賀 幼稚園の人たちが作った？

サトシ そう。

古賀 何の箱だ？

サトシ 散歩用の。

古賀 何の散歩だ？

サトシ 父さんの。

古賀 父さんの散歩に何で箱が要るんだ？

サトシ だって車椅子にはうまく乗らないんだよ、サボテ…

古賀 さぼ？

サトシ ……さぼりがちな竜の散歩はとにかく箱が必要なんだよ！

古賀 お前の嘘は支離滅裂だ！

ノリエ お父さん、落ち着いて…

古賀 だいたい私は自力で飛んでいるんだ、散歩なんて必要ない。

ノリエ はい、そうです、はい…

サトシ 母さん…

古賀 それに、その箱というのは、（指差して）あれなんじゃないのか？

サトシ あれ？

ノリエ あら？

サトシ 何で返って来てるんだ？

古賀 もういい！…充分よくわかった…お前たち…この私の信頼を裏切って

いたとはな…

サトシ ……

ノリエ ……

サトシ 俺も充分よくわかったよ。

古賀 ん？

サトシ こんなことしても無駄だって。

サトシ、ラックに置かれた鏡を手にし、古賀に近づく。

ノリエ

サトシ？

サトシ もう羽を伸ばしていいと思うよ。

ノリエ ……

古賀 何だ…？

サトシ、自分の携帯を開いて、古賀に写真を見せる。

サトシ これ、わかる？ この写真。

古賀 何だ、これは？

サトシ いいから見て。ここ、俺と母さんね。あとは患者さんの奥さんたち。

古賀 ……

サトシ で、これ何だと思う？

古賀 何だ、このひょうきんなサボテンは。お前たちが落書きしたのか。

サトシ、鏡を古賀に見せる。

古賀 ……

サトシ 大変なんだよ、サボテンの散歩は。

古賀 ……(愕然としてサトシとノリエを見る)

サトシ 先生にカルテを見せてもらったら？

古賀、慌てふためいて部屋から出て行く。

ノリエ お父さん！

ノリエ、追いかけて行く。

入れ違いに、ナナミが入って来る。

ナナミ 今の、お父さん？

サトシ (頷く)

ナナミ 戻ったんだ、良かったね。昨日の夜？ 今朝？

サトシ ……(曖昧に微笑む)

ナナミ どうしたの？

サトシ ……もし、ある朝ここにきて、床一面に芝生が生えていたら……俺だと
思ってください！

サトシ、泣きながら部屋を飛び出していく。

ナナミ えっ、なに、どういうこと？

ナナミ、驚きつつ見送り、やがて小野瀬のバスタブへ向かう。
小野瀬の足がピクピクと動く。

ナナミ

ああ、起きてたんだ…（覗き込んで）あれ、だいぶ肌がツルツルしてきた！
うわあもうほとんど元のユウイチだ！ うん、本当本当！ 呼吸は？ もう
ちよつと？ うん、いいよいいよ、無理しないで…

ナナミ、着替えなどを整理しつつ、小野瀬の足と会話をする。

ナナミ

古賀さん、いきなりだよねえ。サトシくん、泣いてたみたい…あそこん家
もいろいろあるみたいだよね…

あれ、青山先生、いないんだ…でも驚いたよねえ、青山先生もここに来る
なんてねえ…産婦人科もただでさえ人手不足らしいのに、大丈夫かなあ、
ちよつと心配になるよ…

あ、مامィコさん、来てない？ そうなんだ…今、個室を覗いて来たんだけ
どベッドにいなかったから、てっきりこつちだと思ってた…

本間さんもいなくなっちゃったし、古賀さんも退院になるのかな？ ちよつ
と寂しくなるなあ…あ、そっか、うちもさつさと退院しなきゃね…寂し
がってる場合じゃないか、あははは…

入口から青山が静かに入ってきて来る。足が戻っている。

キミハルのカーテンに向かって、黙ってじつと立つ。

ナナミ

古賀さん？ ……じゃない、青山先生？ （足に気づいて）……あれえっ！

青山、ナナミに軽く会釈をし、すぐにまたキミハルのカーテンに向かう。

青山

成澤さん…昨日あれからずっと病院側と水中出産について検討を重ねた
ところ、思いのほかスムーズに話が進みましてね、どうやら実現できそ
うなのです。その後、産婦人科のスタッフや知り合いの医師やらに連絡をと
つて、具体的な案について検討してましたら、そのまま宿直室でウトウトと

寝てしまいました…ハッと目が覚めたら、すでに夜が明けており、そして…私の足も戻っておりました。なぜ戻ったのか、自分でもはっきりとわかりませんが…おそらく水中出産の目処が立ったからに違いなく…そう考えますと、やはり成澤さんご夫婦の立ち会い出産の件が、私にとって多大なストレスになっていったのかなと…いえ、責めているわけではありませんが。ただ、何となく成澤さんを裏切ったような、出し抜いたような感じがしないでもないことが心苦しくて…申し訳ない！でもこれだけは言わせて下さい、成澤さん、たとえ足が戻って人間の姿になっても、私の心は人魚です！だから…

青山、カーテンを開ける。が、成澤はいない。

日和、走り込んで来る。

日和 あ、青山先生…（足を見て）あれえっ！

青山 うん、今朝起きたら、こういうことに…

ナナミ どうかしたんですか？

日和 あっそうだ、成澤さんは？

青山 いないんです。

日和 どこへ行ったか、知ってますか？

ナナミ ううん。

日和 困ったなあ。奥さん、破水したそうなんです。

ナナミ ええっ。

青山 破水。

日和 ええ、それで産婦人科から、ご主人を呼んでくれと…

ナナミ 大丈夫なんですか？

青山 お産が破水から始まるのはよくあることです。破水すると二十四時間以内に陣痛が始まるのですが、まれに陣痛が来ないことがあります。そうなったら、緊急帝王切開になります。

ナナミ 帝王切開…

青山 破水する時に赤ちゃんを包んでいる膜も破けるのです。だから赤ちゃんが細菌感染する恐れがある。とにかく、スムーズにお産を進めなければなりません。

ナナミ マミコさん…

日和 とにかく成澤さんを探して来ます。

青山 私も探します。

小野瀬、皆の会話を聞きながら、何かを言いたげに、

身体をモゾモゾと動かしていたが、やがて急に、ガバツと上半身を上げる。上半身はすっかり人間に戻っている。

小野瀬 ……屋上……屋上です！

皆 呆然として小野瀬を見る。

小野瀬 屋上へ行くと言っていました！ 日和さん、早く……ああ、自分で走ればいいんだ！

呆然としている皆をおいて、小野瀬、入口から走り出て行く。やがて我に返った日和と青山がそれを追い、ナナミも見送る。

病室の照明が暗くなり、屋上の明かりがつく。

キミハル、車椅子に座り、携帯電話をかけている。

キミハル

課長をお願いします……（しばし待って）課長、成澤です。……じつは僕、入院してまして……すみません、黙ってて。……人魚になってしまいました。いえ、例えとかではなく、そういう病気というか……人間としては病気ですが、人魚としては健康そのものだそうです。大丈夫です、正気ですよ。しばらくお休みを頂きます。有休ではなく、病氣療養ということ。……わかりました、明日にでも伺います。……課長は大丈夫ですか？……バスルームから出られなくなっていますか？ 部署の人たちのそういう話は聞いていませんか？……そうですか……課長も体調には気をつけてください……って、負担をかけている僕が言っても仕方ないですけど……でもいくら仕事だからって、魚になつてまでやらなきゃいけないことなんて、そんなのあるはずがない。たとえどんなに健康な人魚になれたとしても……やはり人間は人間でなければいけないと思うんです……

キミハル、不意に横から呼ばれたように振り向く。
驚いた表情をし、そのまま屋上の入口のほうへ向かい――

暗転。

◇ 10・バスルーム⑦ ◇

一カ月後。

病室に照明が差し、小さな水槽とその中を泳ぐ熱帯魚を照らす。やがて病室全体が明るくなる。晴れた日の午後。

マミコがひとり、椅子に腰かけている。

病室には誰もいない。波の音が静かに響く。

バスタブはすべて空。

小さな水槽はバスタブ5のキャビネットの上に置かれている。

日和、書類を手に入ってくる。

日和 お待たせしました、ではこれを…

マミコ ありがとうございます。お幾らでしたっけ？

日和 三千円です、全部本当のやつなので。

マミコ お手数おかけしました。

日和 いえ…今日は一ヶ月検診でしたっけ？

マミコ はい、何ともなかったです。

日和 そうですか。

マミコ 青山先生もお元気そうだったし。

日和 もう少し休んでほしかったんですけどねえ。

マミコ、熱帯魚に視線を移し、

日和 でもまさか、本間さんがこんなきれいな魚になるなんて…

マミコ ちよつと意外ですよ。

日和 かなり意外でした。

入口からキミハルが入ってくる。

車椅子に乗り、膝に赤ん坊を抱いている。

腰から下は膝掛けに覆われているが、その端から靴が見えている。

マミコ …寝た？

キミハル 寝た。

日和 (覗いて) あ、ほんとだ、寝てる寝てる…

もらったよ、診断書。

あ、どうもありがとうございます。

どうですか、自宅療養は。不便じゃないですか？

まあ多少は…でもだいたい足が戻ってきたというか、爪先に力が入るようになってきたので。

良かった。しばらく会社は休まれるんでしょう？

ええ。

リハビリにはちゃんと通って下さいね。

もちろん。

間に合って良かったですよね、出産。

ええ。

でも結局、帝王切開になったから、立ち会えなかったけど。

青山先生の水中出産計画、意味なかったですね。

ま、そんなもんかな、と。

ま、そんなもんだよね。

そうそう、小野瀬さんの奥さんもうすぐみたいですよ。

ああ…私も連絡はとってます。だんなさんも順調みたいですね。

はい。

あとは…

三人、熱帯魚を見る。

キミハル

東京湾で遭難するとはね…

マミコ

沖繩に泳いで行くなんでできるわけじゃないじゃない、何で止めなかったの？

キミハル

止めたよ、でも聞くようなやつじゃないだろ？

日和

とにかくもう大変でした。「海ほたるに人魚が出た」って大騒ぎになってしま

まって…海上保安庁に協力してもらって何とか連れて帰って、噂もどうにかこうにか揉み消して…

マミコ

それがショックで、こんな姿に？

日和

いえ、それが…救助した人の話では、満面の笑みで「音速の壁を越えた」

とか何とか言ってたらしくて…搬送される途中でだんだん上半身が変化し始めて、ここに着く頃にはもうすっかりこんな姿に…

マミコ

音速？

キミハル

絶対、超えてないけどな。

日和

音速なら海ほたるは一瞬で通り過ぎますからね。

キミハル

でも本人は満足のいく泳ぎができたんだろうなあ。

マミコ

でも満足したら、普通は回復するんじゃないの？

日和

そこが不思議なんですけど、本間さんは魚としての自分に目覚めてしまっ

たのかもしれないですね。今、いろいろ検査してるところなんですけど、それが終わったら一旦、仮退院して頂こうかと。

え？

キミハル
マミコ

退院？

日和 もうここまでなってしまうと、本間さんのご実家のほうが専門ではないかと。

キミハル 確かに…じゃここはもう誰もいなくなってしまうのか。

マミコ それって、いいことなんじゃない？

キミハル そうか…そうだよな。

日和 いえ、それがですね…じつは今日からまた古賀さんが…

マミコ え、また？

入口からサトシ、荷物を持って入って来る。

サトシ …あれ、成澤さんだ。

キミハル サトシくん。

サトシ こんにちは、うわあ、赤ちゃんですか。

キミハル うん。

サトシ どうしたんですか？

マミコ 私の一ヶ月検診と、あと診断書をもらいに。

サトシ そうですか、お元気そうで良かったです。

キミハル また入院するって…

サトシ ああ…はい。

キミハル 何て言ったらいいかわかんないけど…

マミコ お母さん、休む暇もないね…

サトシ 母なんです、入院するの。

キミハル・マミコ ええっ…

キミハル まさか…バスルームに？

サトシ はい、父が退院して、すぐに籠もってしまっつて。

キミハル どっち？ 上？ 下？

サトシ あ、いえ、魚ではなくて…

キミハル えっ？

マミコ まさか…前に鳥になって飛んで行きたいって言ってたけど…

サトシ ああ、そうなんです。じゃ、気をつけないと飛んで行っちゃうのかもしれないな…

日和 それもあるかもしれないね…

キミハル 鳥？

サトシ いえ…竜です。

キミハル・マニコ ……
 キミハル あ、そう…
 マニコ 上？ 下？
 サトシ 全部です。全身。
 キミハル・マニコ ……
 サトシ あ、長さ測ってききましたけど、七メートル近くあったんで、やっぱりこのバスタブじゃ入りきらないと思うんですけど。
 日和 じゃ、申し訳ないけど、やっぱりプールにしてもらおうか？ 重さは？
 サトシ それはちよつと測れなくて。
 日和 だよな？ 一トントラックで大丈夫かな？ ま、とりあえず行きましようか。
 サトシ お願いします。
 日和 (キミハルたちに) タクシーに乗せるわけにもいかないんで、こちらで手配したトラックで迎えに行くことになってまして。
 キミハル ああ…
 マニコ お父さんは？ ショックでサボテンになったりしてない？
 サトシ 僕もそうなるかと思っただんですけど、不思議と落ち着いてます。
 マニコ え？
 サトシ 相手が駄目になると自分が何とかしなきゃって思うんですかね？ 母に辛抱強く話しかけていますよ、たぶん通じてないと思いますけど。
 キミハル サトシくんは大丈夫？
 サトシ 大丈夫じゃないですよ。でも、ま、その父の姿を見たら、ちよつとスツキリしたっていうか…
 キミハル そう。
 サトシ でも順番からいったらこの次は俺ですから。
 日和 そんなこと言ったら、次は僕だよ。
 サトシ 日和さんは大丈夫ですよ。
 日和 いやあ、どう考えても次は僕のはずなのに、いつまでたっても何の変化もないので、却ってそれが不安なんです。
 キミハル まあまあ、あまり考えすぎないで。そのままでもいいですよ。皆、日和くんの頼りにならないところを、頼りにしているんですから。
 日和 ……ん？
 マニコ お見舞いに来るね。
 サトシ ありがとうございます。
 キミハル 本間もまだいるし。
 サトシ ああ、ひよっこり戻りそうですよね、本間さん。
 日和 どうですかねえ、ほら、幸せそうですよ。

皆、しばし、ゆらゆら泳ぐ熱帯魚を見つめる。

日和

じゃ、行きましようか。

全員、病室から出て行く。

誰もいなくなる病室。

やがて明かりが暗くなつていき、白い湯気が漂い始める。

その湯気の中から浮かび上がるバスルームのシルエット。

バスタブの中でとぐるを巻いた大きな竜と、

それに向かい合つてしゃがみこんでいる男性の影。

すぐにその周囲にも多くのバスルームのシルエットが浮かび上がる。

浸かっている影たちは、動物や植物、異形のものばかり。

それらの影たちは、やがてゆつくりと湯気のなかに消えていく。

(終)

【初演記録】

『バスタブで遊泳するあなたへ』 リーディング上演

テアトル・エコー SIDE B

二〇一三年八月二日～八月四日 テアトル・エコー第一稽古場

作 石原美か子 / 演出 保科耕一

照明 北島千尋 (劇光社) / 音響 山崎哲也

出演

松澤太陽 (成澤キミハル) / 石津彩 (成澤マミコ) / 藤原堅一 (本間シンノスケ)

上間幸徳 (立花ヒロシ) / さとう優衣 (立花ツカサ) / 加藤拓二 (小野瀬ユウイチ)

吉田しおり (小野瀬ナナミ) / 川田 栄 (古賀マモル) / まえだゆきのり (古賀サトシ)

岡のりこ (古賀ノリエ) / 大和田昇平 (日和ミキオ) / 松原政義 (青山カツヒコ)

【上演許可申請について】

本作品の著作権（上演権・映像化権などを含む）は石原美か子に帰属し、無断上演は禁じます。上演を希望する場合は以下の情報を記載の上、連絡先までお問い合わせ下さい。

- ・上演を希望する作品名
- ・団体名
- ・上演目的（第〇回公演、高校演劇大会など）
- ・上演期間
- ・上演回数（ステージ数）
- ・会場名および座席数
- ・入場料金
- ・上演責任者（団体代表者）
- ・団体または責任者の住所（上演許可証の送付先）
- ・作品内容の変更あり／なし

【連絡先】 石原美か子事務所office（メール） ishiharamikako.com

（メール）を@に直して送信願います。

また公式サイトにも上演許可申請について記載しています。

石原美か子ウェブサイト <http://www.ishiharamikako.com/>